

由比町
都市計画マスタープラン
(資料編)

平成 20 年

由比町

～ 目 次 ～

資料編	1
1. 自然的条件	1
2. 土地利用	5
3. 市街化の動向	6
4. 上位・関連計画等	8
5. 景観特性・自然特性	27
6. 小学生・中学生からの提案、提言	32
7. 住民意向調査結果の概要	43

1. 自然的条件

(1) 地勢

本町の南は駿河湾に臨む平坦地で、北後方は浜石岳（707m）をはじめとする、赤石山脈の余脈がせまっています。

由比川以西の山間部は、概ね大起伏山地、中起伏山地、小起伏山地で構成され、由比川以東の山間部は火山地、丘陵地で構成されています。これらの山地をとりまく谷や海岸斜面は、相当な急斜面を呈しています。

また、本町は駿河湾と糸魚川を結ぶフォッサマグナ地帯にあたり、古来より幾度か地すべりが発生し、甚大な被害を被ってきました。

このようなことから国や県では、地震対策とあわせ、巨費を投じ直轄地すべり防止工事を行っております。

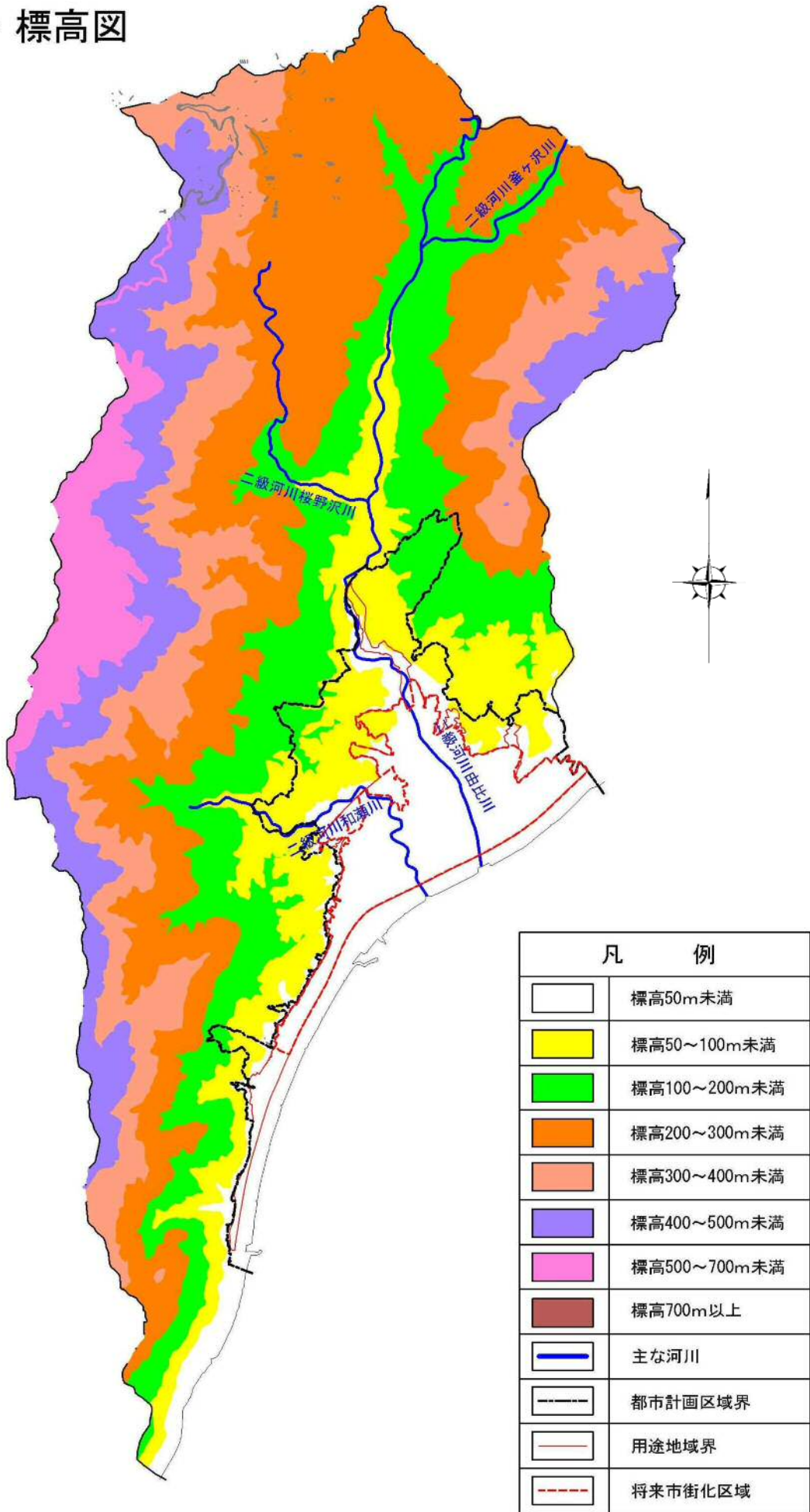
(2) 地質・地盤

本町の北部の入山断層以西には、新第三紀鮮新世（約 200 万年前）の浜石岳層群が分布し、礫岩と火砕岩が砂岩と泥岩を挟んでいます。由比川沿いを南北に走る入山断層により、東から西に強く押され、礫岩層のため、南北性の緩やかな向傾斜構造をつくっています。その結果、山地斜面に対して地層が斜面と同じ方向に傾く“流れ盤構造”ではなく、“受け盤構造”になっていますが、浜石岳層群の下には小河内泥岩層が分布しており、北東の西山寺あたりになると、この泥層が下部に露出してくるため、山地斜面の傾斜はゆるくなりますが、地すべりは起こりやすくなると考えられます。

東部は、鷲の田礫層や高位段丘礫層からなる丘陵や砂礫台地、岩渕火山の安山岩類の山地に移行します。地すべり性崩壊の多発地域で、崩壊堆積物の分布地域も広い状況となっています。

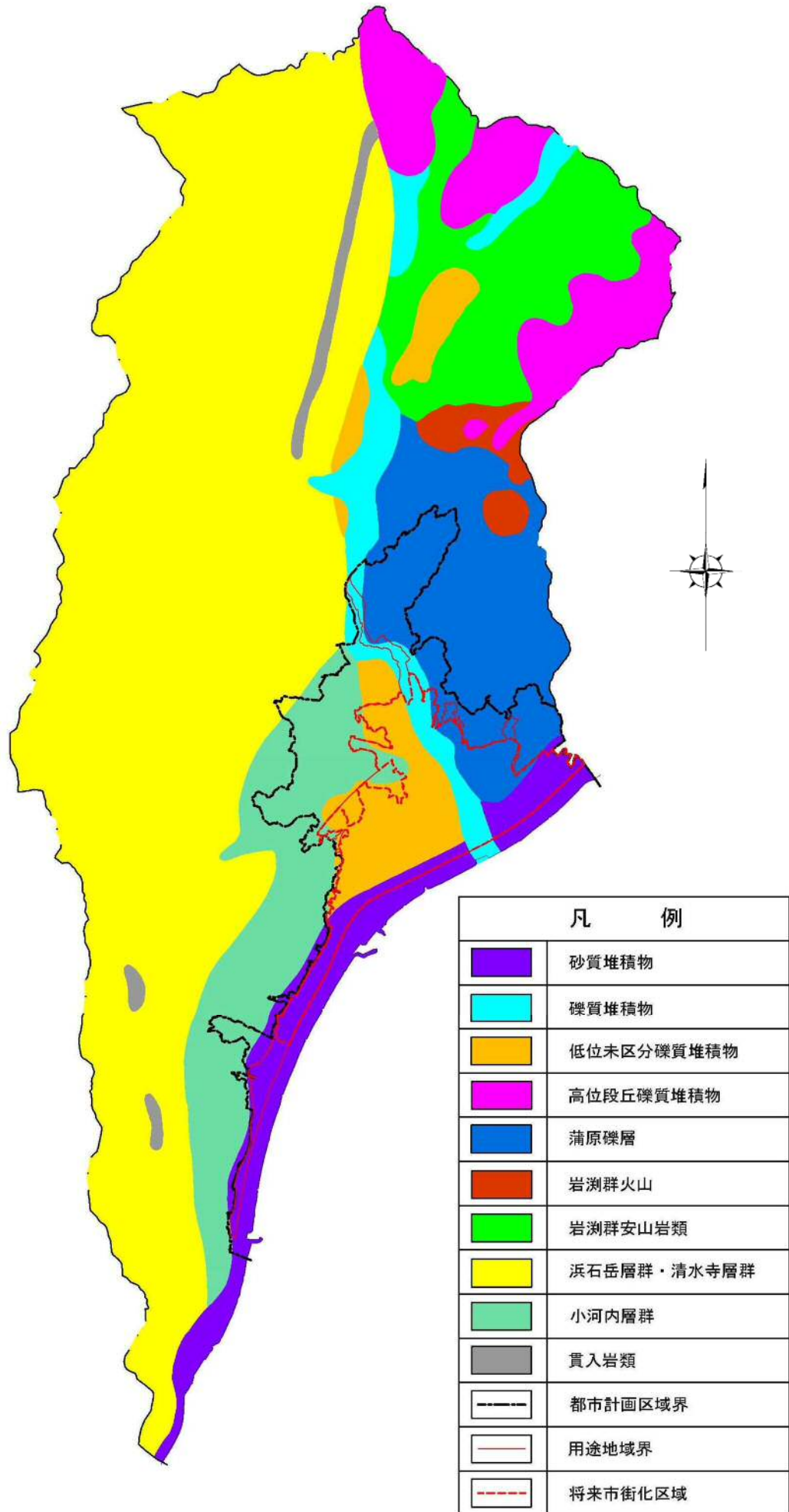
倉沢以南の地形の特徴として、急崖と平坦面が組みになった地形が多く見られます。海岸に向かい、3段の階段状地形となっており、このような地形の組み合わせは、高さは異なりますが、南北のいくつかのブロックに分けられるようです。

水系・標高図



凡 例	
	標高50m未満
	標高50~100m未満
	標高100~200m未満
	標高200~300m未満
	標高300~400m未満
	標高400~500m未満
	標高500~700m未満
	標高700m以上
	主な河川
	都市計画区域界
	用途地域界
	将来市街化区域

地質図



(3) 気象

本町の年平均気温は約 16℃で、年降水量は 2,300mm 前後であり、典型的な表日本型の気候で、冬季には温暖で穏やかな晴天の日が続きます。降雨は県内平均であり、梅雨から夏季に全降水量の約 50%が降ります。

◆年次別気象状況

区分 年次	気 温			平均湿度 %	平均風速 m	年間雨量 mm
	平均℃	最高℃	最低℃			
平成11年	16.5	32.7	-2.0	77.2	1.8	2,251.0
12	16.2	35.9	-1.9	73.7	1.8	2,545.0
13	15.9	34.1	-1.9	64.7	1.9	2,193.5
14	16.0	33.1	-2.1	64.1	1.9	2,336.5
15	15.8	33.1	-4.9	65.1	1.8	3,000.0
16	16.6	36.6	-2.1	63.0	1.9	3,343.0
17	15.6	36.5	-1.8	62.5	1.6	1,791.5

資料：庵原地区消防組合

(4) 植生

山間部がほとんどを占める本町の森林状況は、「由比町森林整備計画」によると、総面積 2,303ha に対し、民有林面積 1,023ha、官行造林面積が 41ha で、そのうちスギ、ヒノキ主体の人工林面積は 824ha で、全体森林面積の約 80%を占めています。国有林は減少しているものの、民有林が増加しているため、昭和 51 年から平成 3 年の 15 年間で 80ha 増加（増加率 8.2%）しています。

浜石岳周辺、東山寺地区の一部、入山地区の一部に、比較的自然度の高いコナラ群落が分布しています。また、ススキ群団が、町北東部に面的にある他、小規模なものが数箇所点在しています。

なお、都市計画区域内の植生状況は、みかんをはじめとする果樹園が全体の概ね 6 割を占めています。

2. 土地利用

本町の土地利用構成は山間地が多く、由比川・和瀬川の流域及び沿岸部の平坦地は宅地として土地利用していますが、全体の約4%にすぎません。また、山間地の多くはみかんなどの果樹栽培や森林に土地利用していますが、由比川より西側の傾斜地は脆弱で崩壊しやすい地質のため開発等に不向きな土地になっています。

都市計画区域についてみると、農地（果樹園含む）が1/3程度を占め、これを含めた自然的土地利用は1/2以上を占めています。

平成18年に指定した用途地域内は、主として由比川・和瀬川の流域及び沿岸部の平坦地を中心に指定していますので、3/4以上を都市的土地利用が占めています。

◆由比町の土地利用（行政区域内）

平成17年4月1日現在

区 分	行政面積	宅 地			農 用 地			森 林	その他
		総数	住宅用地	その他	総数	田	畑		
面 積(ha)	2,303	92	64	28	457	3	454	730	1,024
構成比(%)	100.0	3.9	2.7	1.2	19.9	0.1	19.8	31.7	44.5

平成18年 由比町の統計より

◆由比町の土地利用（都市計画区域内）

区 分	自然的土地利用					都市的土地利用										合計
	農地 (畑)	山 林	水 面	自然 地	その他 自然的 利用	住宅 用地	商業 用地	工業 用地	農業 施設 用地	公益 施設 用地	道 路	交通 施設 用地	その他 公益 用地	その他 空地		
都市計画 区域	114.4	22.4	8.0	31.8	6.0	72.1	5.3	15.3	1.8	17.1	48.5	11.6	0.0	6.7	361.0	
	31.7	6.2	2.2	8.8	1.7	20.0	1.5	4.2	0.5	4.7	13.4	3.2	0.0	1.9	100.0	
現行 用途 地域	28.0	1.6	3.6	3.6	2.2	52.3	4.7	16.3	1.0	11.6	19.1	8.5	2.7	7.1	162.3	
	17.3	1.0	2.2	2.2	1.4	32.2	2.9	10.0	0.6	7.1	11.8	5.2	1.7	4.4	100.0	
将来 市街 化 区域	17.3	0.5	2.4	3.4	1.0	47.9	4.7	15.3	0.5	10.9	16.9	6.5	3.0	6.6	136.9	
	12.6	0.4	1.8	2.5	0.7	35.0	3.4	11.2	0.4	8.0	12.3	4.7	2.2	4.8	100.0	

資料：都市計画区域内は「平成15年度 都市計画基礎調査」

現行用途地域内は「平成17年度 用途地域設定調査」

将来市街化区域内は「平成20年度 区域区分設定調査」より

3. 市街化の動向

(1) 市街地の変遷

本町の人口集中地区（D I D）は平成 17 年に 116ha、約 5.3 千人で、昭和 50 年から面積は、調査年ごとに若干の増減はあるものの概ね 100～120ha 前後を推移し、区域界も調査年ごとに若干の違いはあるものの概ね同じ区域です。

一方、人口は減少傾向にあります。

◆D I D 区域の変遷

年次	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)
昭和 50 年	120	6,268	52.0
昭和 55 年	110	5,966	54.0
昭和 60 年	110	5,821	53.0
平成 2 年	101.8	5,690	55.9
平成 7 年	106.2	5,758	54.2
平成 12 年	116	5,588	48.2
平成 17 年	116	5,348	46.1

資料：平成 12 年までは都市計画基礎調査より
平成 17 年は国勢調査による

(2) 開発許可の状況

本町における宅地開発等の状況は、山間地がほとんどを占め地質も脆弱な状況下のため、平成 5 年に 1.7ha の住宅団地の開発行為 1 件が阿僧地区で行われただけです。

(3) 農地転用状況

本町における農地転用状況は、平成 10 年から平成 14 年の間に転用された農地の面積は全体で約 3 万㎡ですが、内訳として住宅地と駐車場などのその他への転用が約 90%を占めています。平成 11 年は、全体転用面積が 1 万㎡を越えましたが、年平均約 5 千㎡程度が転用されている状況です。

◆農地転用状況

	住宅用地		工業用地		公共用地		その他		合計	
	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)
H10	6	2,065	0	0	1	50	7	3,199	14	5,314
H11	7	1,440	1	1,067	2	1,353	13	6,657	23	10,517
H12	14	3,260	1	55	0	0	6	2,690	21	6,005
H13	8	1,112	0	0	0	0	7	941	15	2,053
H14	12	3,606	0	0	1	194	6	1,865	19	5,665
合計	47	11,483	2	1,122	4	1,597	39	15,352	92	29,554

資料：平成 15 年度都市計画基礎調査より

(4) 道路

本町の道路は、自動車専用道路である東名高速道路や都市間幹線道路の国道1号バイパスが海岸線沿いを走っています。幹線道路としては、市街地を東西に走る県道富士由比線及び県道由比停車場線と由比川沿いを北に延びる県道富士富士宮由比線を基軸として、これらに連絡する町道により生活道路網が形成されています。

市街地内の町道は狭隘道路が多く、山間地ではカーブが多く、幅員狭小箇所も多くみられ、地質的に脆弱なため落石崩壊等の危険箇所もあります。

(5) その他交通

本町の海岸線をJR東海道本線が走り、由比駅が市街地の西方に設置されています。

路線バスは、県道富士由比線を通り寺尾橋から蒲原病院、富士川駅を經由して富士駅まで運行しています。

また、入山地区・阿僧地区を連絡するようコミュニティバスが2路線運行しています。

(6) 河川

本町には、二級河川由比川・和瀬川水系を中心に、幾多の小河川が流れています。その河川は、山地全体が急峻で地質的に脆弱なため、急流においては河床の低下が進んでいる状況です。

一方で、由比川では河口の河川敷にスポーツ公園、また入山地区には親水公園があり、自然と水に触れ合える空間の整備に努めています。

(7) 公園

由比本陣公園は、江戸時代の生活文化を知る体験ゾーンとして由比宿の本陣屋敷を整備するとともに、公園内に東海道広重美術館と東海道由比宿交流館を整備しました。

由比川河口にはスポーツ公園を整備し、また体系的な公園ネットワーク化を計画し、陣笠山公園、入山親水公園、ポケットパークの整備を進めてきました。

(8) 地すべり・急傾斜地

本町は昔から地すべりが数多く発生し、人家や交通施設に多大なる被害を与えてきました。昭和50年度以降、林野庁が直轄地すべり防止事業として工事を進め、平成13年3月を持って概成し、今後の管理のための「由比地すべり管理センター」が完成しました。

また、西山寺外6地区は農地地すべり事業として、静岡県が継続的に事業を実施するとともに、薩埵山周辺では、大規模な地すべりの地形が確認されたため、国土交通省が地すべり機構とその対策を調査し、地すべり対策事業を行っています。

急傾斜地崩壊危険箇所は23ヶ所あり、そのうち15ヶ所については崩壊危険区域の指定を受け、崩壊防止工事が概成及び施工中です。

4. 上位・関連計画等

(1) 静岡県総合計画 平成 14 年 4 月

魅力ある“しずおか” 2010 年戦略プラン

この総合計画は、平成 22 年を目標年次とし、静岡県の基本目標（将来像）・基本方向、及び分野別の目標・施策の方向等について、平成 14 年 4 月に策定されました。加えて同年 7 月には、県内各地域が魅力ある地域づくりを進めるための基本的考え方を明らかにする「地域編」が策定されました。その概要は以下のとおりです。

- 基本理念** — 「富国有徳」の魅力ある地域づくり
基本目標 — 豊かな快適空間と有徳の志が織り成す「魅力ある“しずおか”」の実現
具体的将来像 — 多彩な夢の実現に挑戦できる「魅力ある“しずおか”」の県民生活

施策の分野別基本方向

- ・「環境の世紀」を拓く“持続可能な社会”づくり
- ・健康で心ふれあう“安心社会”づくり
- ・地震災害・事故・犯罪等に備えた“安全社会”づくり
- ・独創性のある“元気な産業”づくり
- ・世界に広がる“出会いと交流”の基盤づくり
- ・未来を拓くために何かができる“意味ある人”づくり
- ・“多彩な自己表現”の機会づくり

(2) 静庵地区第 4 次広域市町村計画 後期計画 平成 18 年 3 月

この計画は、平成 22 年を目標年次とし、静庵地区（静岡市、富士川町、由比町）において、圏域の特性を十分に考慮して、将来あるべき姿を描き、それに到達するための総合的な振興整備の方向を示すもので、今後、圏域市町が広域的に推進する施策ならびに行財政運営の指針になるものとして、平成 17 年度に策定されました。

その概要は以下のとおりです。

① 計画策定の趣旨

21 世紀を迎え、国際化、情報化の進展や地球環境問題の深刻化、本格的な少子高齢社会の到来等により、わが国の社会経済環境は大きく変貌している。

とりわけ、「平成の大合併」と称される全国規模の自治体合併は、地域の発展の方向にも大きな影響をおよぼしている。

また、これまで国土開発の指針であった「全国総合開発計画」が廃止され、近年の社会情勢の変化に対応した「国土形成計画」に改められようとしている。こうした一大転換期における、個性豊かで活力に満ちた魅力ある圏域の確立を推進していくため、第 4 次広域市町村圏計画後期基本計画（平成 18 年度～22 年度）を策定するものである。

② 圏域の将来像

～豊かなひと・まち・くらしをつくる静庵～

- 1 高度な都市機能を享受できる圏域をつくる
- 2 災害に強く安心して暮らせる圏域をつくる
- 3 快適で地球環境にやさしい圏域をつくる
- 4 健康で支えあい心ふれあう圏域をつくる
- 5 地域文化を継承・創造する圏域をつくる
- 6 個性的で高付加価値産業の圏域をつくる

③ 土地利用

土地利用の基本的方向は、本圏域のもつ自然的条件、地域における土地利用形成の歴史等に配慮しながら、自然環境、生活環境、生産環境の調和をはかりつつ、広域的視点に立って、本圏域の将来像「豊かなひと・まち・くらしをつくる静庵」の実現を目指し、保全、活用、整備を計画的、総合的にすすめるものとする。

④ 構成市町及び県の果たすべき役割

市町を単位とする生活環境施設などは、各市町がそれぞれ整備をすすめるとともに、広域的利用が可能な施設については、関係市町との調整をはかりながら整備を推進する。構成市町の機能分担は、それぞれがもつ優れた機能を生かし、連携しながら、圏域の将来像の実現につとめるものとする。

～由比町～

柑橘類などの農業、桜えび漁を中心とした沿岸漁業ならびに食品加工業などの生産活動とともに、薩埵峠、浜石岳を中心としたハイキング等のレクリエーション機能や東海道広重美術館、由比本陣公園を中心とした観光機能を分担する。

⑤ 具体の事業計画（由比町分抜粋）

項目	施策（基本計画）	事業主体	事業概要
幹線道路	広域幹線道路の整備	県	主要地方道の整備（富士富士宮由比線）
文化・生涯学習	生涯学習施設の整備	由比町	広重美術館蔵品購入
学校教育	教育環境の整備	由比町	由比中学校校舎改築事業
スポーツ・レクリエーション	スポーツ環境の整備	由比町 民間	スポーツチャンバラ全国少年少女選手権大会の開催
		静岡市 富士川町 由比町	静庵地区青少年野外センターの運営
消防・救急	消防力の整備充実	由比町	消防団分団車庫改築事業
地震対策	防災対策の充実	由比町	耐震性小型貯水槽設置事業、北小学校あわせ硝子設置工事
治山・治水・海岸保全	治山・がけ崩れ対策	県	地すべり対策
		由比町	治山事業
農林水産業	特色ある農林水産業の安定供給	由比町	林道改良事業、由比漁港特定漁港漁場整備、水産業共同施設整備事業費補助、由比漁港小規模局部改良事業

(3) 静岡都市計画 都市計画区域マスタープラン（案）

この計画は、静岡都市計画区域の基本理念、及び地域毎の市街地像を定めるものです。その概要は以下のとおりです。

a) 都市づくりの基本理念

目標年次 平成 22 年(基準年次より 10 年後)・・・区域区分、都市施設の整備等
平成 32 年(基準年次より 20 年後)・・・都市づくりの理念、将来の都市構造

- ① 協働・共創して地域の可能性を最大限に引き出し、創造を発揮するまち
- ② 生き活きと安全、安心、快適、ともに暮らすことができるまち
- ③ 多様で高次・高質な生活様式を実現できるまち
- ④ 新たな文化や産業を創造し、国内外に積極的に発信するまち
- ⑤ 国際性豊かな人・物・情報があふれ、活発に行き交うまち

b) 地域毎の市街地像

① 住宅地域

既存住宅地では、狭隘道路の改善、身近な公園の整備等により、居住環境の改善、防災性の向上を図る。

市街地の周辺部に位置する住宅地においては、土地区画整理事業等による都市基盤整備にあわせて、地区計画制度等の導入を図り、良好な居住環境の維持、向上を図る。

② 工業地域

住宅地と工業地が共存している地域については、地場産業の振興に配慮しつつ、居住環境と生産環境の調和を目指した土地利用を図る。

また、東名高速道路、第二東名自動車道、中部横断自動車道等を活かした流通・業務機能の向上を図る。

③ 農業地域

市街化調整区域内の農地は、農業生産の基盤として、引き続き農業環境を保全していく。

斜面地のみかん畑や茶畑、低地部の水田などの農地は食料生産等の他、自然環境や生物の生息空間としても重要な緑であることから、今後も保全を図る。

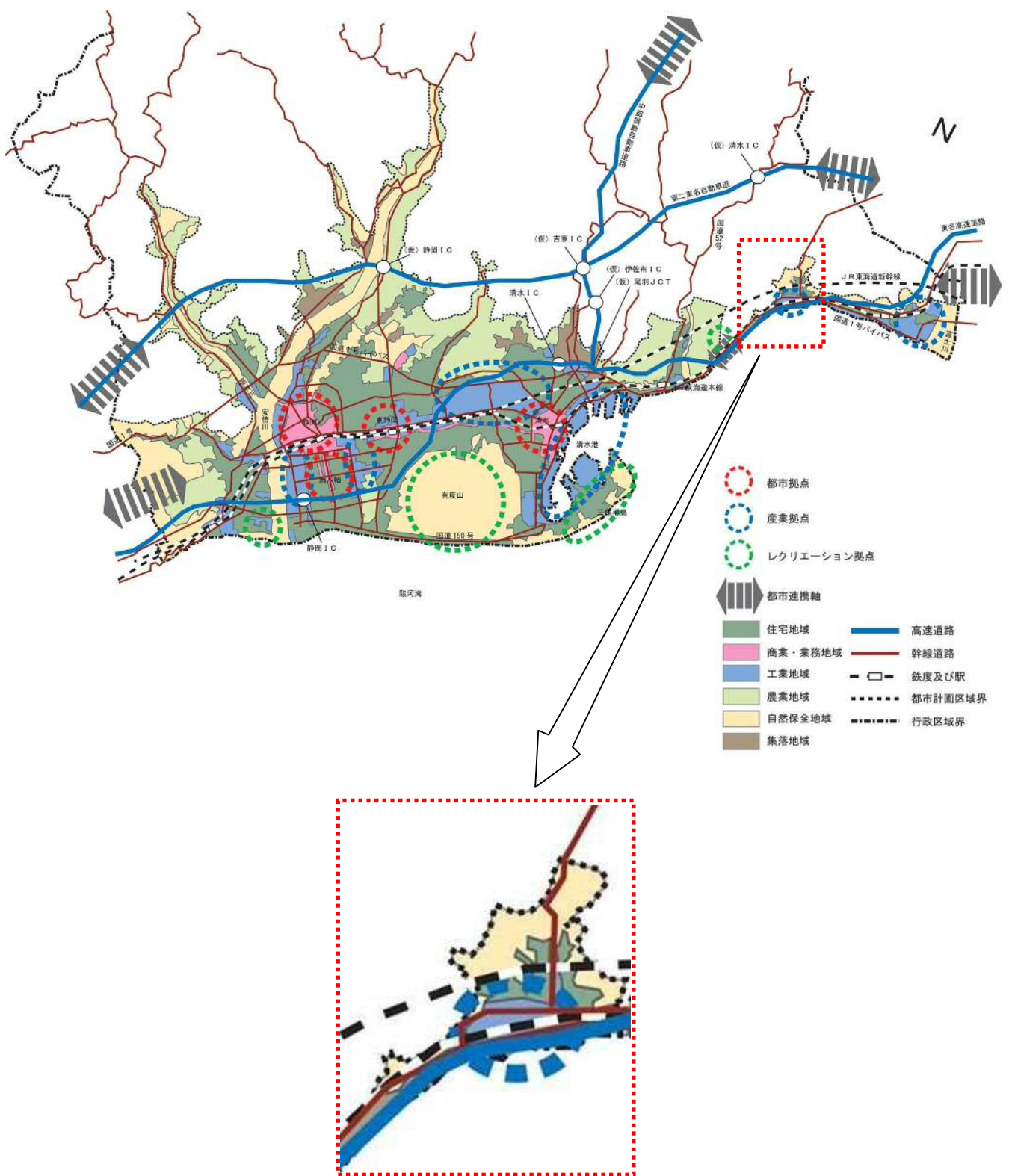
④ 集落地域

市街化調整区域に点在する既存の農村集落については、集落内の環境整備等により、良好な田園居住環境の実現を目指す。

⑤ 自然保全地域

商業・業務地域、日本平県立自然公園、風致地区、その他上記に区分されない地域については、現在の良好な自然環境を維持・保全する自然保全地域として位置づける。

附図 将来市街地像図



c) 主要な都市計画の決定の方針

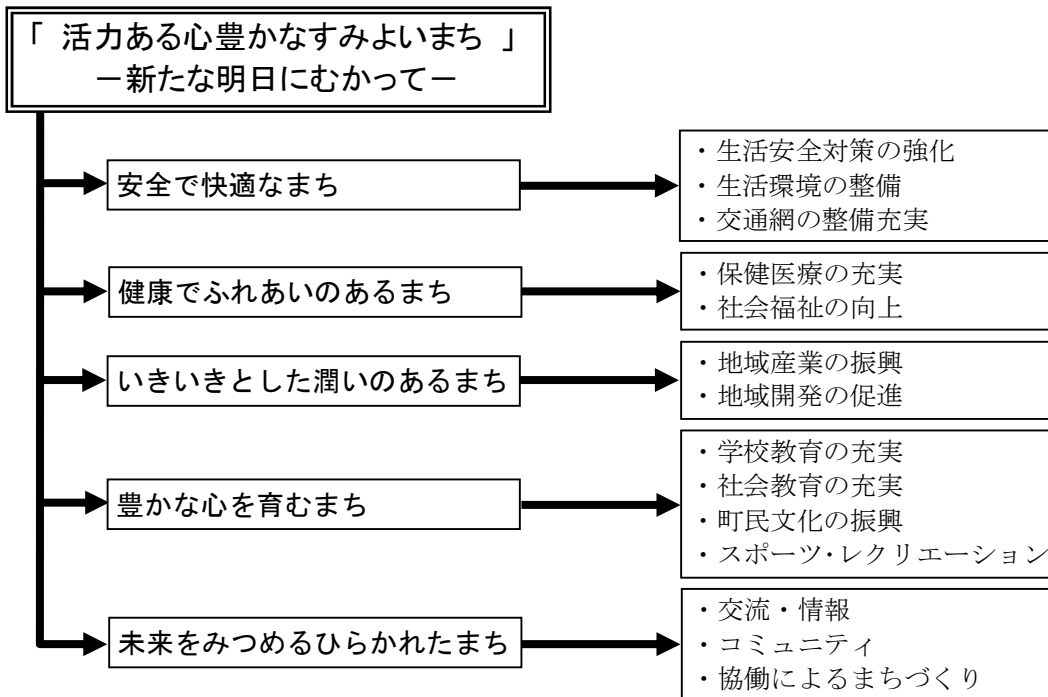
<p>土地利用の方針</p>	<p>① 居住環境の改善または維持に関する方針 由比町の J R 東海道本線沿いに带状に連なる既成市街地では、用途の混在や狹隘道路、狭小な可住地などの生活環境上の問題がある。これらを改善するため、適正な土地利用の誘導と市街地整備や道路環境整備を検討し、快適な居住環境の確立を図る。</p> <p>② 市街化区域内の緑地または都市の風致の維持に関する方針 市街地内に点在する緑地、寺社樹林地や小河川等については、良好な環境を形成する要素として積極的に保全を図る。また、歴史や文化を残す風景の維持・保全に努める。さらに、市街化区域内のまとまりある農地については良好な緑地空間として活用する。</p> <p>③ 優良な農地との健全な調和に関する方針 水田及び畑地帯等は、営農規模の持続、農業生産基盤及び農業投資の効果を勘案して、今後とも優良な農地として保全を図る。</p> <p>④ 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針 市街地を取り巻く森林、農地については、その保水及び遊水機能等の災害防止機能の維持・向上を図るため、市街化を抑制するとともに、適正な管理と保全を図る。 また、土砂災害特別警戒区域及び急傾斜地崩壊危険区域等の適正な管理や、それらと近接・隣接区域における適正な土地利用規制の実施により、災害の未然防止に努める。その他、湛水、土砂災害等のおそれのある区域についても開発を抑制していく。</p> <p>⑤ 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針 都市の骨格を形成する自然環境については、基本的に保全しながら、人と自然のふれあいの場としての利用を図る。 由比町の都市計画区域界に沿うように位置する丘陵斜面の緑地は、市街地の外縁部を形づくり、環境保全・防災・景観機能上の効果が大きいことから、快適な都市環境形成を目指し、地域振興に考慮しつつ引き続き保全を図る。 また、駿河湾沿岸は、本区域を代表する豊かな自然環境を有していることから、引き続き保全する。</p>
<p>都市施設の方針</p>	<p>①道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自動車専用道路 東西方向の国土レベルの交通軸となる東名高速道路を配置する。 ●主要幹線道路 本区域と周辺市町村を相互に連絡する路線であり、本区域の東西方向の主軸を形成する道路を配置する。 ●幹線道路 由比町の市街地の骨格を形成するとともに各都市間を連携する幹線道路として一般県道富士由比線、主要地方道富士富士宮由比線を配置する。 その他、各地区で発生、集中する交通を効率的に集散し、良好な居住環境の形成を図るために補助幹線道路、区画街路を配置するほか、将来の都市の発展方向等を踏まえた都市計画道路の配置を検討する。また、歴史的街並みが存する旧東海道沿道では、景観に配慮した街路を配置する。 ●鉄道 鉄道については、各駅の拠点性や周辺地区における住宅地開発による利用者増を勘案の上、周辺環境の整備と併せて、駅前広場やアクセス道路を配置することにより、駅周辺の集客機能の向上及び駅利用者の利便性の向上を図る。 <p>②下水道及び河川</p> <ul style="list-style-type: none"> ●下水道 本区域は都市化の進展により、家庭や工場からの汚水排水の増加による公共用水域の水質汚濁・生活環境の悪化等が問題となっている。これらの問題に対処し快適な居住環境を形成するため、現在実施中の公共下水道について、その整備を促進するとともに、流域下水道の整備を促進する。 また、公共下水道区域外では、生活排水等による農業用水及び河川の汚濁を防止するために、合併処理浄化槽などを用いた整備を推進する。 さらに、雨水については河川等その他の排水施設との役割分担を図り、下水道の整備を促進し、浸水区域の解消に努めていく。

	<p>●河川</p> <p>本区域は、二級河川由比川、和瀬川、その他中小河川の流域に属している。</p> <p>本区域の市街地を流域とする中小河川では、都市化の進展に伴い、降雨が短時間で集中して流出する傾向を強めているため、治水計画に基づき関係機関と調整の上、危険度の高い箇所、住民生活への影響が大きい箇所から優先的な整備検討を進める。</p>
市街地開発事業の方針	<p>既成市街地の都市基盤未整備地区においては、各地区の特性を考慮し、市街地開発事業、街路事業等による都市基盤整備を実施し、あわせて地区計画、建築協定等を必要に応じて導入し、土地の高度利用、中心市街地の活性化、都市防災機能の強化、及び居住環境の向上を図る。</p> <p>既成市街地の縁辺部においては、現在でも比較的未利用地が残存していることから、スプロール化を防止するため、土地区画整理事業、街路事業等による都市基盤整備を進め、あわせて地区計画、建築協定等を必要に応じて導入し、計画的に良好な市街地形成を図る。</p> <p>道路が狭く、建物が密集している由比町のJR東海道本線沿線の地区においては、地区計画制度等の活用により、防災及び住宅地機能の再生を図り、良好な住宅地の形成を図る。</p>
自然的環境の整備・保全方針	<p>本区域は、風光明媚で極めて良好な自然環境を有している。また、気候温和で古代から人が住み着き、由比本陣跡等の歴史的資源にも恵まれている。</p> <p>そのため、良好な自然・歴史的な環境の保全を図るとともに、今後さらに多様化する余暇活動に対するレクリエーション施設等の整備、地震等の災害に対応する避難地・避難路等の確保が緊急かつ重要な課題となっている。</p> <p>基本方針としては、これらの緑地を確保するための諸施策を総合的かつ効率的に推進し、市内の特徴的な地形を緑の骨格として位置づけ、配置する。</p> <p>また、これらを有機的に結び、緑のネットワークを形成することにより、総合的な緑地の保全、整備、創出を行い、健康的、安全、かつ文化的な都市づくりを図るものとする。</p> <p>なお、由比町では、旧東海道沿道の旧市街地において、住宅の集積密度が高く、緑地が少ないことから、都市公園などの事業を促進する。</p>

(4) 第5次由比町総合計画 平成19年3月

① 基本構想

基本構想において、由比町のまちづくりに関する方針は、次のように定められています。



また、土地利用に関する方針は、次のように位置付けられています。

1. 農用地
 - ・都市的土地利用との計画的な調整をはかりながら、保全につとめる。
 - ・集団的優良農地の整備開発や農地の流動をすすめ、生産性の向上をはかる。
2. 森林
 - ・森林の持つ多目的役割を活かすため、森林の確保と整備・保全をはかる。
 - ・浜石岳周辺は自然保護推進と同時に良好な自然環境を保ちながら、有効的レクリエーション利用の場として整備につとめる。
3. 原野
 - ・環境保全を配慮しつつ、土地の周辺環境に応じた有効利用をすすめる。
4. 河川・水路
 - ・自然環境の保全に配慮しながら適正な管理のもと、その利用につとめる。
 - ・必要な改修を行い、災害防止や環境整備につとめる。
5. 道路
 - ・主要な生活道路を中心に、適性かつ必要な用地の確保をはかる。
 - ・農林道は、経済的機能を総合的に発揮するとともに、農用地の高度利用及び森林の管理・活用の観点などから、自然環境の保全に配慮した整備をすすめる。
 - ・道路の整備は、歩行者の安全性・快適性及びユニバーサルデザインなどに配慮する。
6. 宅地
 - ・道路・公園などの基盤整備や生活関連施設の整備を計画的に行う宅地開発を検討する。
7. 市街地
 - ・総合的基盤整備の計画や既存市街密集地域の解消又は狭隘道路の改善などにつとめる。
8. 海岸地域
 - ・幅広く海岸の利用の検討をすすめる必要がある。
9. その他
 - ・公共・公益施設用地は、需要の増加に対応して適切な配置を行うとともに、環境保全に留意し、計画的かつ積極的な先行取得を行い、必要な用地の確保をはかる。

② 後期基本計画

◎安全で快適なまち

生活安全対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点、町の活性化のための由比地すべりセンターの活用 ・向こう三軒両隣作戦による災害時に安否確認や救出救助活動 ・合併処理浄化槽の設置や公共下水道の整備 ・海岸樋管清掃による河川、海域などの水質浄化と環境保全
生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・交差点改良や狭隘箇所への拡幅改良 ・カラー舗装や歩道の設置・街路樹等による修景的整備 ・無料耐震診断制度と耐震補強工事の補助金制度の活用 ・公営住宅の高齢化社会への対応、定住化対策の推進、貸出可能空家の有効利用 ・緑化意識の普及高揚、公共施設、空間の緑化推進 ・高齢者対策を考えた移動手段の確保、JR由比駅及び周辺のバリアフリー化
交通網の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国道1号のアクセス整備の検討 ・現国道1号の渋滞・防災対策として、新国道1号バイパス建設を調査検討

◎健康でふれあいのあるまち

保健医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに必要な機能の充実 ・健康福祉センター利用者の利便性を考慮した用地の拡充 ・病院の充実と町内診療施設の適正な確保
社会福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターの充実 ・桜えびっこ医療費助成事業の推進 ・ボランティア活動への支援 ・由比町心身障害者小規模授産所の充実、施設運営の指導

◎いきいきとした潤いのあるまち

地域産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産の振興、新品種の導入、観光型農業を重点とした農業の展開 ・森林の持つ公益的機能を発揮するため、適正管理につとめ山地災害を防止 ・恵まれた漁業資源の管理、生態系に配慮した漁業環境の保全 ・外港整備事業の一層の進捗
地域開発の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・用途に沿った地域の形成をすすめるため、都市計画区域の見直しを検討 ・遊休地の開発の可能性を探り、対応策を検討しながら有効利用 ・官民一体となった観光事業の展開

◎豊かな心を育むまち

学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境整備・教育の充実 ・効率的な給食をすすめる施設、設備の充実、その維持・管理
社会教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習を推進するための家庭や地域の活性化 ・静庵地区青少年野外センターの、時代に即した施設としてのあり方の検討
町民文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動の活発化を促進 ・町民の文化芸術意識の高揚
スポーツ・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保・資質の向上 ・施設の整備・拡充

◎未来をみつめるひらかれたまち

交流・情報	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口を増やすため、多彩なイベントを通じ国内外へ本町の情報を発信
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の実情に応じたコミュニティ意識の普及高揚 ・地区集会施設の整備
協働によるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・町の将来都市像を明らかにするため、町民と協調 ・町民のまちづくりに参加及び参画のできる機会の増加

(5) 庵原広域都市計画 緑のマスタープラン 平成7年3月

この計画は、平成22年を目標年次とし、旧庵原広域都市計画区域(富士川町・旧蒲原町・由比町)において、総合的な緑地の保全・整備・創出を図るため、平成7年に策定されました。

その概要は以下のとおりです。

① 計画策定の趣旨

旧都市計画区域は、駿河湾、富士川そして卓越する山地・丘陵に囲まれた平坦地により形成されている。そして、その位置的優位性から江戸時代より栄え、現在も交通の要所として重要性を有している。しかし、狭隘の地に形成された市街地は、豊かな自然を身近に享受できる一方で、宅地の密集化が進み、緑被率は極めて低いものとなっている。さらに幹線交通の市街地集中により、オープンスペースが地域住民の周辺から姿を消すなど、生活環境や都市環境の悪化の傾向がみられる。そこで、区域内及び周辺の良い自然・歴史的環境の保全を図るとともに、市街地内の公園緑地の整備、災害発生時への避難地・避難路といったオープンスペースの確保、あるいは風土性豊かな都市景観の保全と整備を図ることを目的としています。

② 公園緑地の配置方針

区域内に残存する緑地の保存、損なわれつつある緑地の修復、損なわれた緑地の回復、新たな緑地の創造を心掛ける。また、地域性や文化性を織り込んだ緑豊かなまちづくりを進めるため、環境保全、レクリエーション、防災、景観構成の4つの観点から緑地の配置計画を定めることを方針としています。

③ 由比町の公園緑地等、及び緑地保全地区等の目標

本町における計画は、下表及び右図のとおりです。

なお、阿僧地区では、緑豊かな住環境を形成していくモデル的住宅団地として、緑化重点地区プランが計画されていました。(阿僧団地は整備済みです)

図版	種別	名称又は所在地	面積 (ha)
地- Y1	地区公園	(仮)北田公園	3.8
緑地- Y2	都市緑地	(仮)陣笠山公園	1.8
緑道- Y1	緑道	(仮)由比川緑道	3.0
広場- Y1	広場	由比区遊び場	1.3
運動- Y1	運動場	由比スポーツ公園	1.3
公空-Y1 公空-Y2	公共空地 公共空地	由比川水面 東名高速道路法面	5.5 3.8
風致- Y1	風致地区	寺尾周辺	4.3
風致- Y2	風致地区	西山寺周辺	2.5
風致- Y3	風致地区	西山寺、阿僧周辺	43.7
風致- Y4	風致地区	由比、東山寺周辺	31.0
風致- Y5	風致地区	東山寺周辺	32.8

旧庵原広域都市計画区域
 緑のマスタープラン計画図
 (実現のための施策の方針図)



		凡 例		
		表 示 方 法	平 成 1 2 年 度 以 来 最 大 値 まで	平 成 2 2 年 度 以 来 最 大 値 まで
施 設	公 園 緑 地			
	緑 道			
地 区	公 共 空 地			
	条 例 等 に よ る も の			
地 域 制 緑 地	緑 地 保 全 地 区			
	風 致 地 区			
地 域 制 緑 地	条 例 等 に よ る 地 域 制 緑 地			
	そ の 他			
想 定 市 街 化 区 域 (平 成 2 年 度 現 在)				
想 定 市 街 化 区 域 (平 成 2 2 年 度 最 大 区 域)		平 成 2 年 度 と 同 じ		
都 市 計 画 区 域				



(6) 由比観光振興ビジョン 平成 18 年 3 月

① 事業目的

この計画は由比町の商工会が、観光商業への取り組み、宿場町「由比」、魚の町「由比」、農産物の町「由比」のイメージづくりについて、地域商工業者や住民が取り組みやすい方策を研究し、町に提言した観光ビジョンです。

② 由比観光ビジョン計画のテーマ

人と人とがふれあう、やさしく懐かしいまち（観交地由比）

由比町を訪れた観光客が、昔懐かしい町並の風情や富士山、駿河湾の雄大な風景を楽しむとともに、由比町の住民とふれあう中で、心の優しさや暖かさを感じることで、観光客と住民が交流する観光の町を目指します。

桜えびと水産加工（地魚）のまち 由比

薩埵峠、間の寺倉沢、寺尾道、旧東海道由比宿地区を由比町の観光拠点として、今後も一層の振興を図ります。今後は、これまで、観光客があまり回遊したり立ち寄ることの少ない JR 由比駅から由比川に掛けての町屋原などの地区及び由比宿場町の北側の本光寺、林香寺及び桜えびの加工場などの立地する地区を含めて、このテーマを設定し、町の中心部を回遊する観光の町を目指すものとします。

日本一の「由比桜えび通り」

特に、今後振興策が必要とされる JR 由比駅と由比川を結ぶ商店街地区を振興して、歩いて巡る人の動線の連続性を保つため、通りの愛称を「由比桜えび通り」と定めます。そして、観光客へのアピールを行うとともに、イベントや販売促進戦略を展開し、まち全体を歩いて巡れる楽しいまちづくりを目指します。

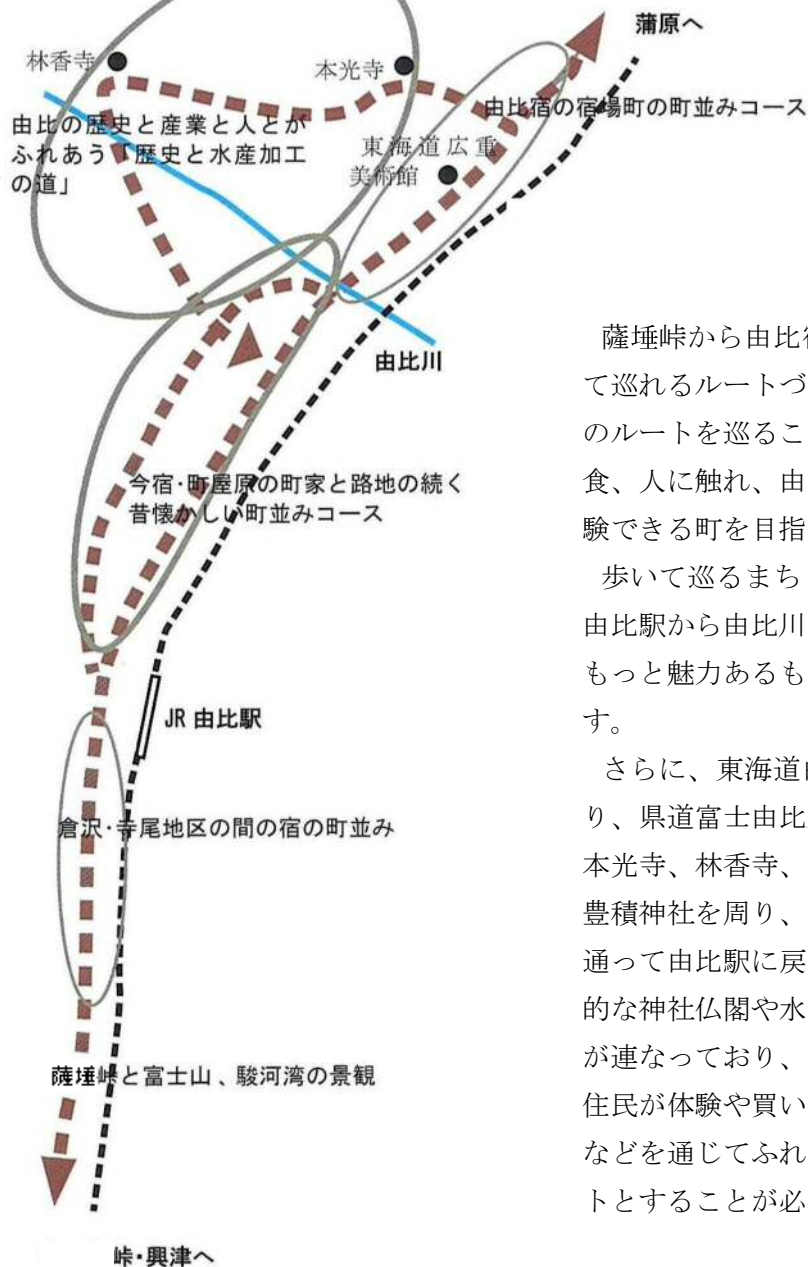
③ 観光のまちづくり主要計画

I. 歩いて巡るまちづくり計画

- ・ 東海道の宿場町由比の江戸時代の風情を楽しめるまち
- ・ 今宿・町屋原の町家と路地の続く昔懐かしい町並コース
- ・ 由比の歴史と産業と人がふれあう「歴史と水産加工の道」



■歩いて巡る由比の町ルートづくり



薩埵峠から由比宿まで、町内を「歩いて巡るルートづくり」を行い、これらのルートを巡ることにより、景観、歴史、食、人に触れ、由比の良さを複合的に体験できる町を目指します。

歩いて巡るまちとするためには、JR 由比駅から由比川までの約 2km の通りをもっと魅力あるものとする必要があります。

さらに、東海道由比宿の由比本陣を通り、県道富士由比線を渡り、北側にある本光寺、林香寺、北野天満宮、地持院、豊積神社を周り、県道富士由比線沿いを通して由比駅に戻る回遊ルートは、歴史的な神社仏閣や水産物の加工場・販売所が連なっており、由比を訪れた観光客と住民が体験や買い物・食事、歴史の案内などを通じてふれあうことのできるルートとすることが必要です。

II. 由比の地魚がおいしい「由比桜えび通り計画」

- ・桜えびのまちのメイン通りを（愛称）「由比桜えび通り」とする
- ・秋の桜えびまつり（提案）の開催

III. 地域の物産販売拠点「（仮称）とれたて新鮮館」づくり

- ・空き店舗の活用による「（仮称）とれたて新鮮館」づくり
- ・運営組織づくり

IV. 薩埵峠の景観と由比町の写真撮影を楽しめるまち

- ・薩埵峠ウォーキングルート
- ・由比町の写真を楽しむ景観ポイントの紹介と発見

(7) 都市計画決定状況

本町は昭和46年から、富士川町、蒲原町とともに庵原広域都市計画区域を形成していました。しかし、静岡市と蒲原町の合併に伴い、平成18年2月10日付で、静岡市と蒲原町域において、新たな「静岡都市計画区域」となり、由比町は単独で「由比都市計画区域」となりました。

都市計画区域名は変わりましたが、由比町内の都市計画区域、及び都市計画決定状況は従来どおりで、下表のとおりです。

用途地域は平成17年に定めましたが、それまでは都市下水路が1路線定められていただけでした。

特別工業地区は、住工混在がみられる準工業地域の一部に定め、居住環境に影響すると考えられる用途の建物の建設を禁止するとともに、一定規模以上の工場を建てる場合には、騒音や振動を軽減させるため、建物の構造の制限を定めています。

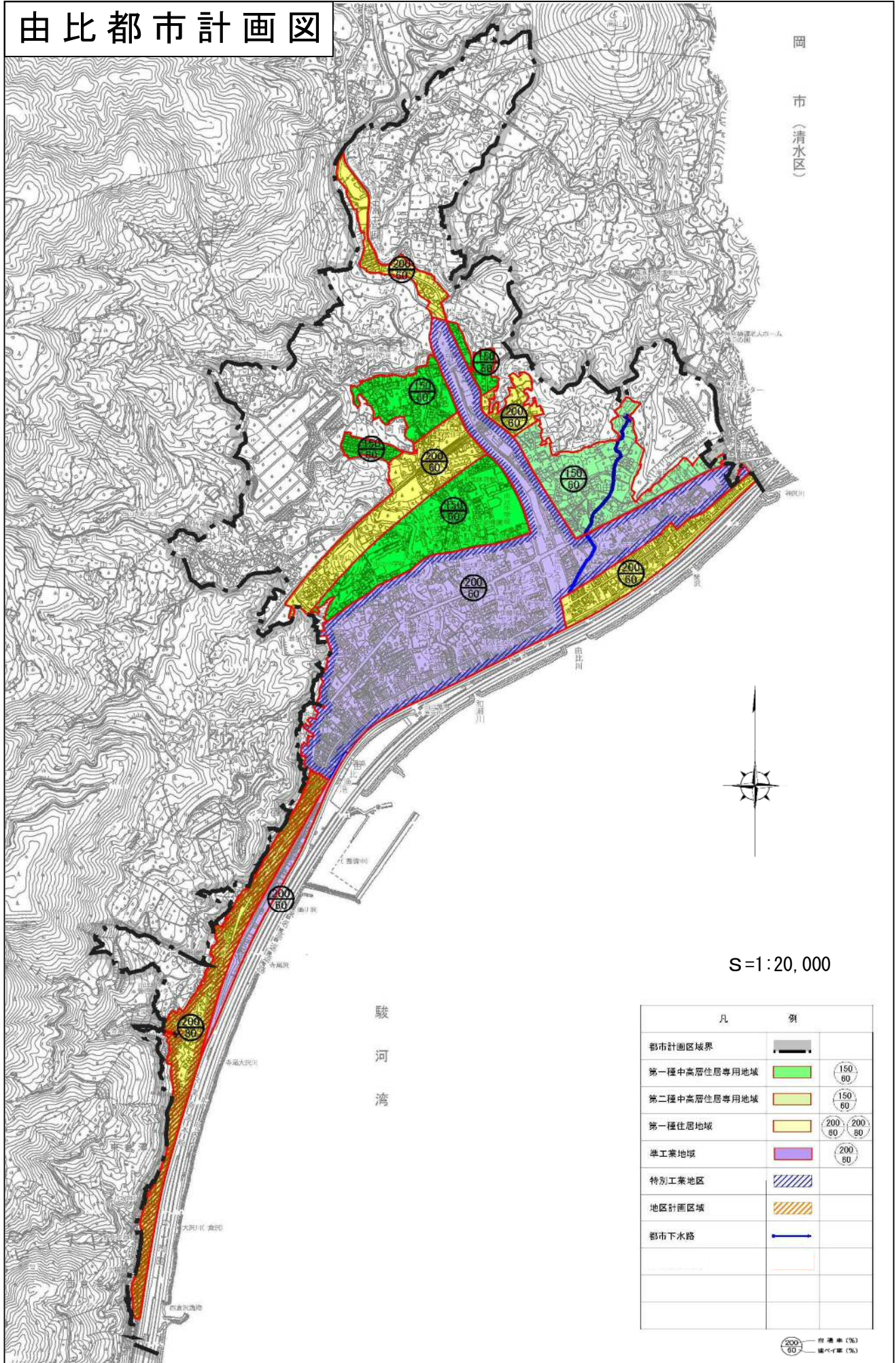
また、寺尾倉沢等地区計画は倉沢区・寺尾区と今宿区の一部の第一種住居地域で、用途地域上の建ぺい率を80%に指定した区域において、建ぺい率を70%とするため活用しています。

名 称			面積 (ha)	計画決定年月日		告示番号	
				当初	最終		
地域地区	用途地域	第一種中高層住居専用地域	150/60	28	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31
		第二種中高層住居専用地域	150/60	15	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31
		第一種住居地域	200/60	29	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31
			200/80	16	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31
		準工業地域	200/60	74	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31
特別用途地区	特別工業地区		69	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31	
地区計画	寺尾倉沢等地区計画		15.5	H.17. 8. 1	H.17. 8. 1	町告 31	

都市下水路	名 称	計画決定		供用状況		計画決定年月日		告示番号
		排水区域 (ha)	下水管渠 (m)	排水区域 (ha)	下水管渠 (m)	当初	最終	
	蟹沢	18	800	18	800	S.59. 9.28	S.59. 9.28	町告 26

由比都市計画図

岡
市
(清水区)



<参考>

本町は、平成 20 年 11 月 1 日、静岡市と合併することとなりました。この合併に伴い、由比都市計画区域は無くなり、新たな静岡都市計画区域に再編されます。

都市計画区域では、都市計画法に基づき整備、開発及び保全の方針を定め、またその項目として区域区分の決定の有無を定める必要があります。合併する静岡市は、地方自治法に基づく指定都市であるため、この区域区分を定めなければなりません。

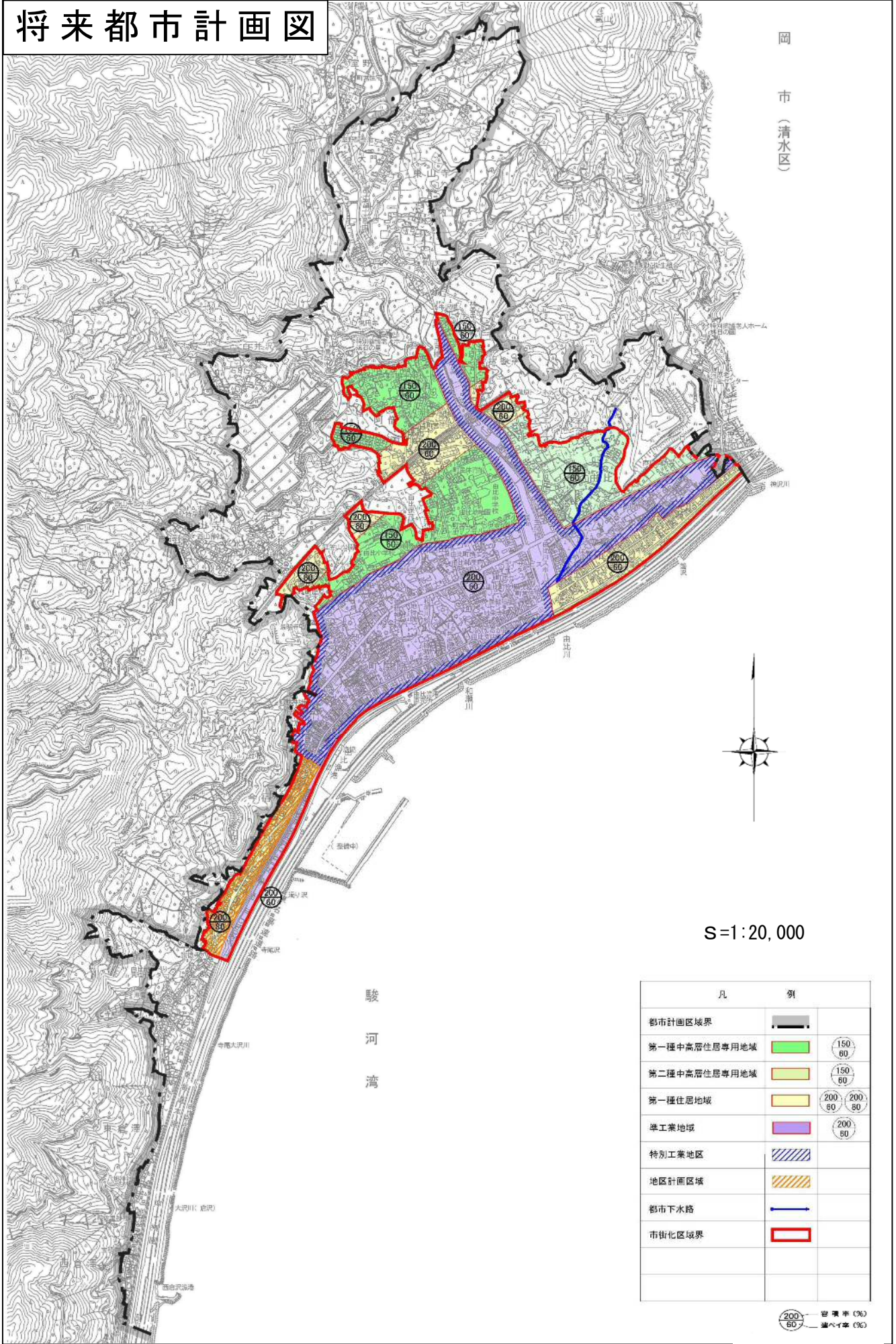
合併により由比町域も指定都市となり、区域区分を定めることとなります。これに伴い、現在の用途地域等も変更されることとなりました。

	面積 (ha)
市街化区域	136.9

名 称			面積 (ha)		
			現行	将来	
地域地区	用途地域	第一種中高層住居専用地域	150/60	28	26
		第二種中高層住居専用地域	150/60	15	14
		第一種住居地域	200/60	29	20
			200/80	16	6.2
		準工業地域	200/60	74	71
特別用途地区	特別工業地区		69	68	
地区計画	由比駅周辺地区計画		15.5	6.2	

将来都市計画図

岡
市
(清水区)



S=1:20,000

駿
河
湾

凡	例
都市計画区域界	
第一種中高層住居専用地域	(150/60)
第二種中高層住居専用地域	(150/60)
第一種住居地域	(200/80, 200/80)
準工業地域	(200/80)
特別工業地区	
地区計画区域	
都市下水路	
市街化区域界	

(200/80) 容積率 (%)
(60) 建ぺい率 (%)

(8) 主要プロジェクト

① 地すべり対策事業

本町は、昔から地すべりが多く発生し、人家・交通施設などに大きな被害を及ぼしてきました。特に昭和 49 年 7 月の台風 8 号及び梅雨前線豪雨により多数の地すべりが発生しました。そのため、昭和 50 年度以降、林野庁が町屋原、今宿、寺尾、倉沢、西山寺地区において、直轄地すべり対策事業として工事を進め、平成 13 年 3 月をもって概成し、今後の管理のため「由比地すべり管理センター」が完成しました。

西倉沢地区は、土木地すべり対策事業として、西山寺外 6 地区については農地地すべり対策事業として、静岡県が継続的に実施しています。

また、平成 17 年から西倉沢地区（由比西地区）を 58.26ha に拡張し、国土交通省直轄で地すべり機構とその対策を調査し、地すべり対策事業を行っています。

◆地すべり防止区域と指定面積

地区名	地すべり防止区域 指定面積	国・県営別	備考
由比東地区	264.22ha	県管理	
西倉沢地区	58.26ha	直轄	当初は県営 由比西地区：19.18ha
西山寺地区	24.60ha	県営（農地地すべり事業）	
白井沢地区	23.50ha	県営（農地地すべり事業）	
白井沢西地区	34.20ha	県営（農地地すべり事業）	
阿僧地区	47.80ha	県営（農地地すべり事業）	
長野地区	26.00ha	県営（農地地すべり事業）	
長野南地区	17.00ha	県営（農地地すべり事業）	
阿僧北地区	24.00ha	県営（農地地すべり事業）	

② 由比外港整備事業

本町の主要産業のひとつである漁業をささえる由比漁港は、生産・流通・加工の拠点です。そのため、漁港整備長期計画に基づき昭和 63 年度から外港整備事業に着手し、平成 23 年度の完成を目指し、整備を進めています。

③ コミュニティバス事業

本町の北部地域における高齢者や長距離移動が困難な方に移動手段を提供する事を目的として、由比町自主運行バス（コミュニティバス）が町内を循環しています。

香木穴・倉沢コースと桜野・阿僧コースの 2 路線が 1 日 5 運行します。気軽に利用できるように、バス停は町内 45 箇所用意し、連絡待合いのため役場 1 階ロビーと庵原消防署 1 階ロビーを待合所として開放しています。

④ 国道1号寺尾交差点改良事業

国道1号と県道富士由比線が交差する寺尾交差点では、渋滞緩和、及び本町市街地へのスムーズなアクセス性確保を図り、立体化のための整備が進められています。現行の寺尾交差点は、国道1号下り線から由比町市街地へ乗り入れることが出来ないため、立体化による観光活性化も期待されます。

⑤ 畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

阿僧地区の用途地域に接する約20haの区域において、平成10年から17年にかけて畑地帯総合整備事業（静岡県施行）を実施しており、良好な農業生産環境を有しています。そのため、今後はこの区域の農業環境の保全、育成が必要です。

⑥ 「ゆいまちの駅」

「ゆいまちの駅」は、町内の飲食店やギャラリー、商店などの民間施設において、観光客への休憩場所としての開放や、町内の文化や歴史、観光情報の提供などを行う「まちづくりの拠点」施設として活動するため、平成18年度に設置（開駅）されました。

現在は、全部で17施設あり、今後の観光振興の一助となるものと思われます。

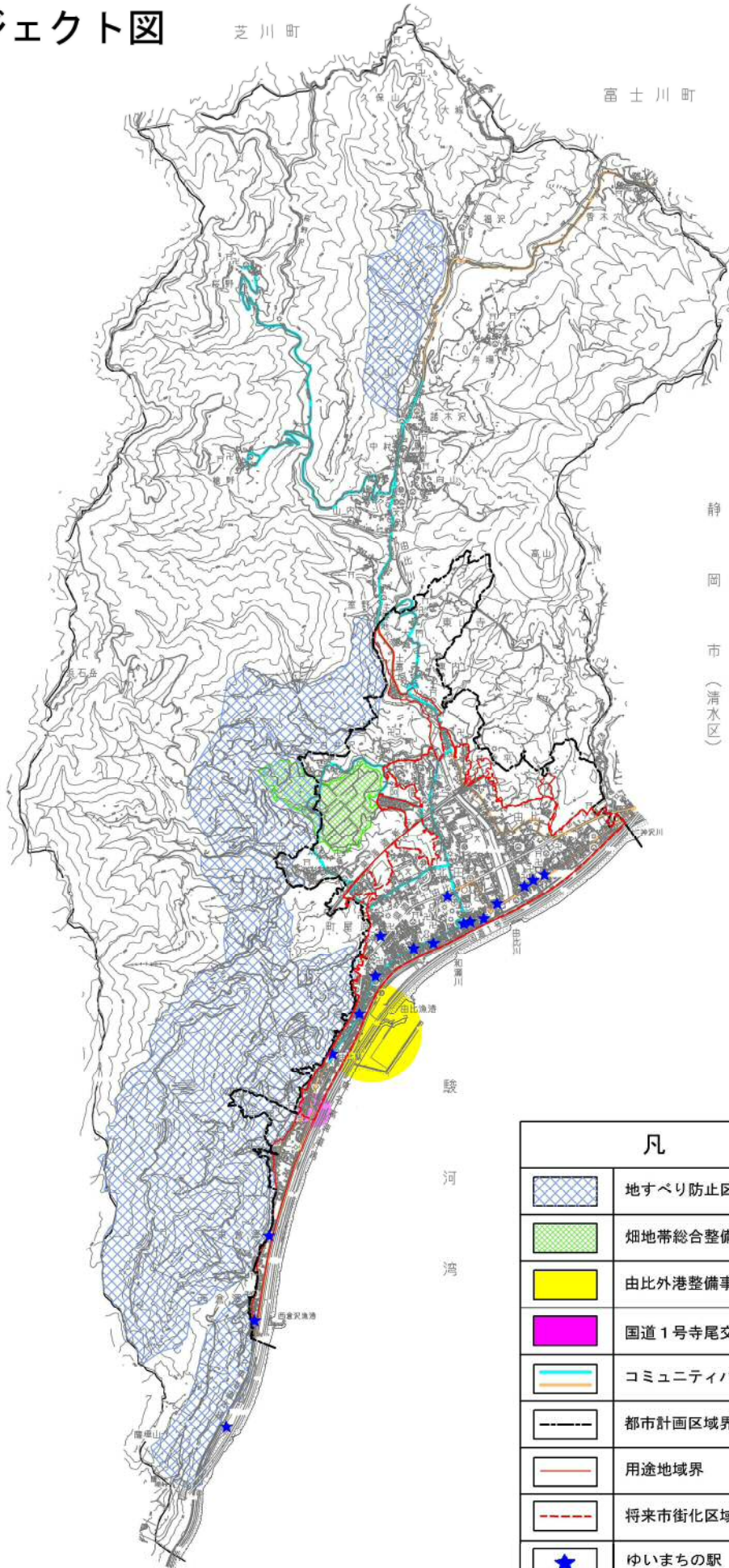
主要プロジェクト図


芝川町

富士川町

静岡市 (清水区)

静岡市 (清水区)



凡 例	
	地すべり防止区域
	畑地帯総合整備事業区域
	由比外港整備事業区域
	国道1号寺尾交差点改良事業区域
	コミュニティバス路線
	都市計画区域界
	用途地域界
	将来市街化区域
	ゆいまちの駅

5. 景観特性・自然特性

(1) 歴史的景観地区

宿場町として栄えた由比町は旧東海道沿いに歴史的な街並があり、東海道広重美術館を核としたゾーンと、寺尾・倉沢地区の狭い道路の両側に軒を連ねる格子づくりの家並が建ち並ぶ「小池邸」を中心としたゾーンがあります。また、歴史国道整備事業の一環として、うるおいのある空間を創出する昔ながらの家並を活かすために、石畳風の景観舗装や街路灯等の修景を施して景観に優れた散策路として整備されています。

○旧街道の家並

狭い道沿いに古い家並が残り、まるで江戸時代にタイムスリップしたような雰囲気になります…



由比正雪生家

江戸時代より18代続く、今も現役の染物屋です。由比家は代々、本陣職を勤めた由緒ある格式の高いお家柄でもありました。



東海道名主の館 小池邸

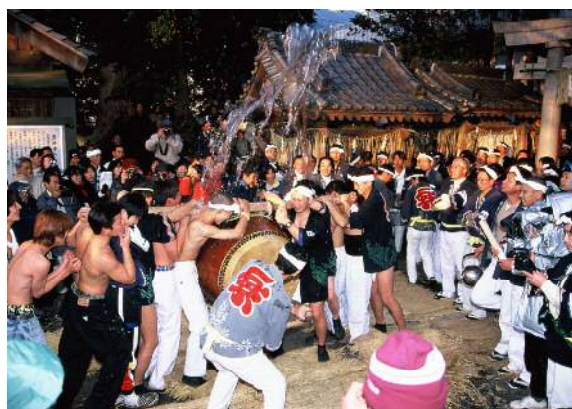
江戸時代の村役人「名主」は、村役人の中で最も重要な役割を担っており、村内では最も家格の高い百姓でした。この館は明治期に建てられたもので、当時の民家の面影をよく残しています。

由比には古くから、多くの寺院が建立され、人々の信仰のよりどころとなりました…



林香寺

鷹狩に訪れた家康が立ち寄ったと言われるお寺です。境内からの眺めが美しく、その情景が、中国の西湖に似ていることから、西湖山の山号があることでも知られています。



豊積神社

創建は、白鳳時代とされています。由比の伝統的な正月行事「お太鼓祭り」は、797年、坂上田村麻呂が奥州平定後、戦勝報告に立ち寄り、正月元旦から三日二晩かけての祝宴が起源といわれています。



由比本陣公園

由比本陣公園は、参勤交代の際に、大名の宿であった「本陣」の跡地に、正門、石垣などを配置し、当時の面影を残しつつ整備した公園です。園内には、由比本陣記念館、東海道広重美術館があり、多くの美術ファンが訪れています。

その他歴史的施設



慈徳寺



飯田八幡宮



大法寺



脇本陣



あかり博物館



清水銀行



桃源寺



地持院



最明寺



讚徳寺



旧街道（寺尾沢の家並）



旧街道（倉沢の家並）

(2) 自然的景観

標高 707mの浜石岳は富士山、南アルプスや駿河湾を一望できる景観ポイントです。ハイキングコースが整備されており、途中の「青少年野外センター」ではキャンプやアスレチックも楽しめます。また、薩埵峠からは歌川広重の描いた当時の面影を楽しむことができ、富士山と駿河湾を一望できる絶景ポイントで、多くの観光客が訪れます。

北部地域では、桜野沢沿いにある遊歩道を歩くと、銚子口の滝があります。滝の高さは約 20m、2 段階で流れ落ちダイナミックな威容で由比町の自然景観の代表の一つです。

○豊かな自然

富士の霊峰を背景に美しい景観に恵まれています…



薩埵峠からの見晴らし

江戸時代の絵師、歌川広重による由比の浮世絵には、難所を越えてきた旅人、帆掛船の浮かぶ駿河湾、富士山などが描かれています。現在は海岸線に国道や高速道路が走り、風景は少し変わりましたが、遠望の富士の美しさはそのまま、多くの人が訪れています。

浜石岳

比較的アクセスが良いハイキングコースとして親しまれています。標高は 707mですが、その展望が山の素晴らしさを伝えてくれます。



銚子口の滝

ダイナミックな威容で、2 段階で流れ落ちる水の勢いに魅了されます。落差は約 20m、様々な流れをみることができます。

由比漁港

現在の由比漁港は、昭和 38 年、東名高速道路の建設時に今の形になってから、大きな改良は行われていませんが、現在、平成 23 年の完成を目指し、新漁港を建設中です。



その他自然的施設・景観



豊積神社の樟



夫婦いちょう



陣笠山



西倉沢漁港

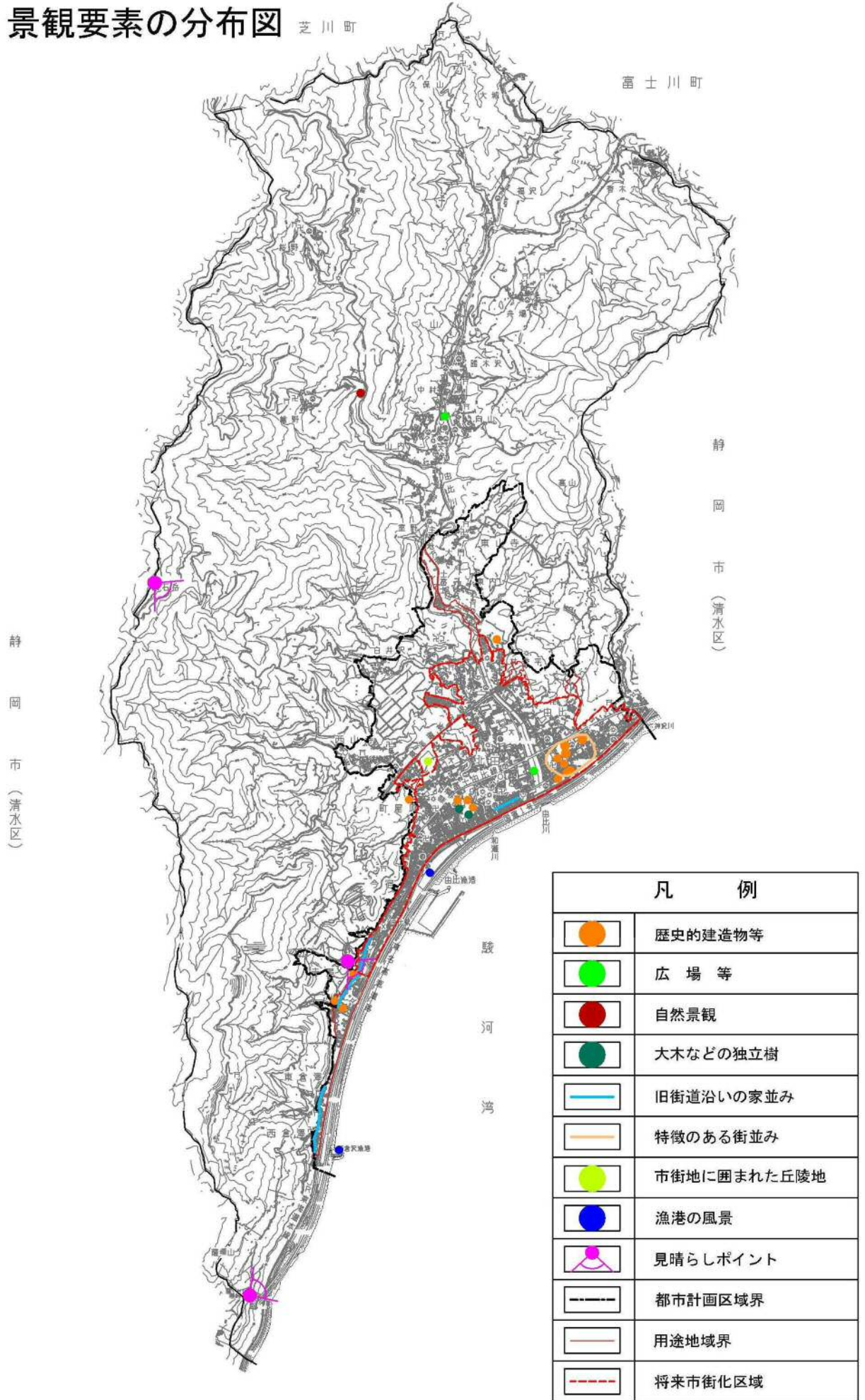


入山親水公園



宗像神社からの見晴らし

景観要素の分布図 芝川町



凡 例	
	歴史的建造物等
	広 場 等
	自然景観
	大木などの独立樹
	旧街道沿いの家並み
	特徴のある街並み
	市街地に囲まれた丘陵地
	漁港の風景
	見晴らしポイント
	都市計画区域界
	用途地域界
	将来市街化区域

6. 小学生・中学生からの提案、提言

由比小学校と由比中学校のご協力により、まちづくりに関する提案、提言をいただきました。その概要です。

(1) 小学生提案概要（平成 18 年度）

平成 18 年度 由比っ子学習発表会

平成 19 年 1 月 27 日

由比町立由比小学校

「だれもが住みやすい町づくり」（6年プレイルーム）

1. 由比の陣笠山公園を有名に

課題：「陣笠山公園の施設が壊れている」

提言：「手すりや階段を直し、安全に楽しめる有名な公園にしよう」

- 小学生を対象としたアンケートでは、陣笠山の悪いところは、「階段が長い」「遊具が少ない」「トイレ・ベンチが汚い」「ゴミがある」等の意見が多かった。
- 特に階段については、高齢者から「手すりを直して欲しい」「段差が大きいので、登りづらい」等の意見もあり、使いやすい施設となるよう修理・改善したほうが良い。



2. 子供とお年寄りがふれあえる町

課題：「子供とお年寄りがふれあえる機会が足りない」

提言：「子供はお年寄りに元気と勇気を、お年寄りは子供に知恵や昔の遊びを、与えられるようなイベントを増やそう」

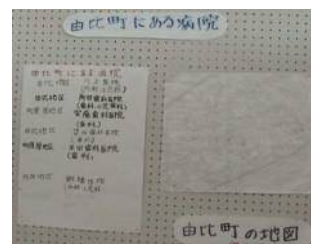
- 児童館で行われたスチレン版画教室や北小学区通学合宿等のように、子供とお年寄りがふれあえる活動を増やしたい。

3. 由比町の病院問題

課題：「由比町には、歯科医と内科医しかいない」

提言：「個人の病院に来てもらおう」

- 由比町には総合病院が無いが、町に新たに総合病院を作るための予算は無い。そこで、耳鼻科や外科等の由比に足りない科については、地元出身の医者に由比で開業してもらいたい。



4. 由比町の交通網

課題：「由比バスが一台しかない」

提言：「由比バスを二台に増やそう」

- 由比バスの路線はほぼ由比町全域を通り、町内の観光地巡りに便利なので、由比バスを二台に増やし、地域住民の生活の足としてだけでなく、観光の用途にも利用してはどうか。



5. 交通安全を考えた町づくり

課題：「由比町には、歩行者が歩く道がない」

提言：「ユニバーサルデザインを取り入れた歩行者専用道を作ろう」

- ・由比の道路は、電柱や路上駐車にさえぎられ、歩行者が歩く道が無いので、子供から老人、障害者も含めた全ての人が使いやすい歩行者専用道路が欲しい。



6. 防犯対策を考えよう

課題：「防犯体制に足りないところがある」

提言：「向こう三軒両隣作戦の強化を図ろう」

- ・安心して暮らせる町にするため、夜間の外出を避ける、貴重品は身につける、向こう三軒両隣作戦等、防犯対策を行う。
- ・特に、近所同士で防犯対策を行う、向こう三軒両隣作戦を強化していきたい。

7. 子供の安全を考えた建物

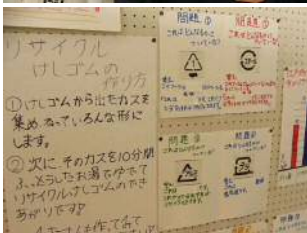
課題：「由比町には、子供を預ける施設が少ない」

提言：「子供のための施設を作ろう」

- ・親が安心して子供を預けられ、また誘拐等の犯罪から子供を守れる施設が欲しい。



「由比の自然を残そう！守ろう！伝えよう！」（5・6年プレイルーム）



1. 環境を考え、リサイクルを進めよう

課題：「ゴミの中にはリサイクル出来るものが多い」

提言：「江戸時代のようにゴミの少ない社会を目指そう」

- ・江戸時代は、古い鍋や釜など、様々なものをリサイクルしていた。「消しゴムのカスの再利用等、身近なもののリサイクルを考えよう」
- ・リサイクルできるよう、ゴミの分別をしっかりと行う。
- ・燃えるゴミとして出している紙は、リサイクルできる。

2. 由比の水環境を守るために僕たちができること

課題：「由比の海川の水が汚染されている」

提言：「ゴミを捨てない意識、リサイクルの心を持つ」

- ・一度捨ててしまったゴミは取り除けないが、これ以上町を汚さないため、ゴミを捨てない意識を持つ。
- ・赤潮や青潮の原因となるため、リン入りの洗剤は使わない。
- ・米のとぎ汁を再利用する。



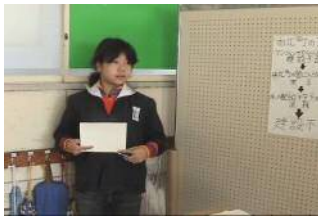
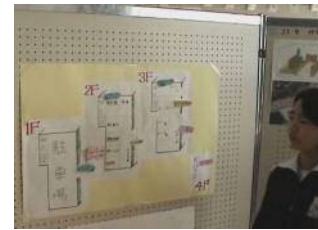
「魅力のある町づくり」 (6年1組教室)

1. 街の活性化：複合型施設の建設について

課題：「由比には大人から子供までがふれ合い、楽しめる施設がない」

提言：「町の活性化を図り、複合型施設を作ろう」

- ・地すべり危険箇所や入山断層を考慮し、複合型施設の建設場所は内港跡地が良い。
- ・町民の「自然の公園が少ない」、「今宿地域にスーパーが無い」という意見から、施設の内部には植物園やスーパーを取り入れたい。また、訪れた人のための駐車場、町民の健康を考えた運動施設、子連れの家族が楽しめるよう託児所等も取り入れたい。



2. 街の活性化：桜えび館について

課題：「由比町を活性化させるため、レジャー施設が必要」

提言：「由比町桜えび館を新設しよう」

- ・由比の特産物である桜えびをテーマとし、多くの観光客が訪れる由比町桜えび館を活かしたい。
- ・桜えび館の意匠には、旧東海道沿線の江戸時代のイメージや、桜えびの色を取り入れてはどうか。また、館内では、旧東海道沿線に並ぶ商店の商品を扱う他、地元の食堂を取り入れ、桜えび料理を味わってもらってはどうか。
- ・観光客用の駐車場を、山を開いて新設し、ロープウェイで駐車場と桜えび館とを結ぶことで、訪れた人が町を高所から眺め、もっと町のことを知ってもらえると思う。

3. 街の活性化：漁業・農業について

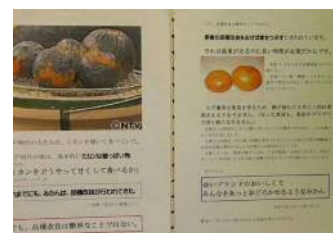
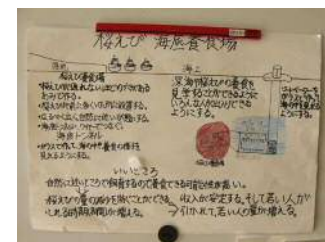
課題：「由比町の漁業と農業には、若者が少なく活性化が必要」

提言：「収入の安定化を図り、桜えび海底養殖場を作ろう」

- ・桜えびは限られた資源であるが、養殖により漁期を増やせる。漁期が増えれば、漁業就業者の収入が安定化し、漁業の活性化に繋がると思う。

「由比の特産物みかんの品種改良を目指そう」

- ・由比の特産物であるみかんの品種改良を考えた。
- ・新品種の名前として、「由比ブランド」「ゆいかん」「スイートゆい」を提案する。



「多くの人をこの町に」 (6年2組教室)

1. 由比の人口を増やし、“由比”の名を残そう

課題：「少子高齢化が進み、人口は減り続けている」

提言：「由比町民の健康を考えた“癒しテーマパーク”を造ろう」

- ・由比駅前、由比中学校裏、西山寺地域内の3箇所に、由比町民の健康を図る癒しテーマパークを建設したい。
- ・癒しテーマパークは、温かみのある落ち着いた場所となるように木材で造った円形の施設としたい。

「特産物を使った新しい商品を開発しよう」

- ・みかんケーキ等、特産物であるみかんを利用した商品を開発し、商品化したい。



2. にぎわう町、由比づくり

課題：「由比町の少子高齢化が進んでいる」

提言：「山を切り開き新しい施設や住宅地を作り、人を呼び込もう」

- ・町の面積の大部分を占める山林を利用し、新しい施設や住宅地を建設したい。
- ・山林を活用する際は、山林の持つ様々な公益機能に配慮する。

3. 少子高齢化を考えた土地利用

課題：「由比町の人口は10,000人をきり、減少している」

提言：「山を開発し、人を集め、明るい町をつくろう」

- ・生活サポートの充実により人口が増加している佐久市のように、由比町でも何か方法を考え実践したい。
- ・町の75%を占める山林を活用し、その1%を住宅地にして人を集めてはどうか。また、観光資源を巡るツアーの開催等で、観光客を増やし、交流の盛んな明るい町としたい。



(2) 小学生提案概要 (平成 19 年度)

平成 19 年度 由比っ子学習発表会

平成 20 年 1 月 26 日

由比町立由比小学校

6 年「伝えよう！由比のよさを」

(音楽室、6 年 1 組教室、6 年 2 組教室、6 年プレイルーム、5・6 年プレイルーム)

1. 陣笠山ってどんなところ？

課題：「陣笠山の階段は子供や高齢者にとって使いづらい」

提言：「施設の修理や新設により、安全に楽しめる公園にしよう」

- ・高齢者や児童が転ばないように、丈夫な手すりをつけてほしい。
- ・階段を誰もが歩きやすい低い段差にしてほしい。



2. 未来の町の改善点

課題：「町の観光施設や公共施設に、不便なところがある」

提言：「身近な施設から改善しよう」

- ・町民の「児童館の遊具が少ない」との意見から、町民に遊具を寄付してもらおう。
- ・観光客の「町の道路は、歩道が狭く、また路上駐車のために歩きづらい」との意見から、ポスターを作り路上駐車禁止を訴える。
- ・高齢者の「町の施設がどこにあるかの案内が少ない」との意見から、観光案内のポスターを作り、町内の移動を分かりやすくする。

3. 未来ニュース

課題：「由比駅の施設は、使いづらい等の問題点がある」

提言：「利用する一人ひとりが駅の問題点を発見し、少しずつ改善しよう」

- ・運賃表の設置箇所は高いところに設置してあり、また文字が小さく見づらいため、文字を拡大したい。
- ・トイレやホームの位置などを示す駅舎内の案内板が欲しい。
- ・券売機の数が少なく混雑が起きるため、切符の販売を駅員も行うことで対応する。



4. 静岡市との合併

課題：「役場が遠くなる等、合併によるデメリットが生じる」
提言：「安心して住める地域となるよう、NPOの活動を広げよう」

- ・町内に関する広報誌を発行する総務委員会、町駅伝競走大会や少年少女スポーツチャンバラ選手権大会などを運営するスポーツ活動委員会、由比桜えびまつりや由比街道まつり等の地域おこし活動を支援する産業経済委員会等、まちづくり組織の活動を広げよう。

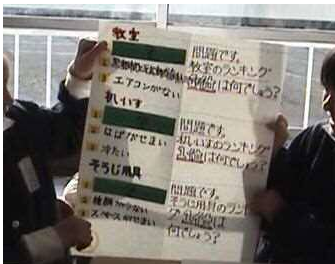


5. 未来の学校

課題：「現在の由比小学校には、不便なところがある」

提言：「小学生徒から集めたアンケート結果を基に不便なところを改善し、未来の小学校を便利にしよう」

- ・階段には、「段差が小さい」「段差の踏面が狭い」「滑りやすい」等、図書館には、「本が古い」「上靴置き場がない」「本が少ない」等、水道には、「詰まる」「蛇口の開閉が大変」「お湯が出ない」等の意見があった。
- ・他には、教室、廊下、机・椅子、掃除用具等で不便な点について意見があったが、これらを基に小学校の施設を改善したい。

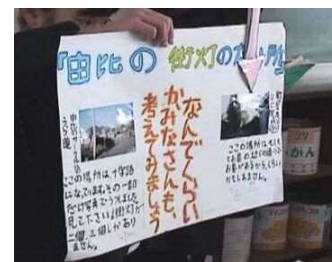


6. 由比の街灯

課題：「街灯が無く、夜、暗いところがある」

提言：「安全安心のために、センサー付の街灯の導入や故障した街灯の修理をしよう」

- ・本陣公園周辺や町屋原の裏道は、人が通らず、街灯が無いため、人が通ったときに反応するセンサー付の電灯を導入したい。
- ・西山寺や阿僧のトンネルは、照明が少なく、また故障しているものがあるため、照明を修理・追加してほしい。



7. 由比の歴史紹介

街並紹介：「提灯屋、鍛冶屋、問屋、寺子屋、紺屋、由比本陣、脇本陣、浮世絵」

提灯屋： 提灯の骨組みに紙を張って家紋などを描く。
正しく家紋を描くには特殊な技能が必要とされた。提灯の種類には、小田原提灯、ぶら提灯、弓張提灯等があり、種類によって用途が違った。



鍛冶屋： 鉄を打って様々なものを作った。由比町では、舟に使われる舟釘がよく作られた。

問屋： 馬の手配や次の宿場までの荷物運び等を行っていた。本陣、脇本陣などと並び、宿場の重要施設だった。

寺子屋： 朝9時から午後2時まで勉強した。勉強方法は、村中の人名を書くことで、字と名を覚えた。

紺屋： 木綿の普及に伴い、藍紺染めが増え、染物屋を紺屋と呼ぶようになった。由比では、着物の他、大量旗や祝いドテラも染められていた。



由比本陣： 現在の高級旅館に当たる。由比本陣は、街道に直接家屋を直面させず、塀等で遮蔽した遮蔽形本陣といわれる形式を特徴としていた。馬の水呑場も特徴の一つだった。

脇本陣： 本陣と比べると、身分が低い大名が泊まる施設だった。



浮世絵： 歌川広重による東海道五十三次が有名だが、浮世絵は様々な職人が集まって作成されている。

町の変遷：「交通手段の発達、由比漁港の誕生」

交通手段の発達

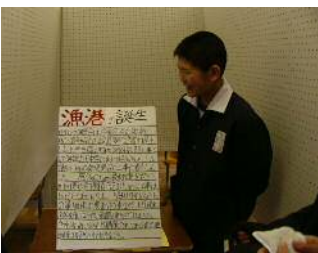


明治時代は、「馬車、人力車、大八車」、昭和になると「バス、ハイヤー、オート三輪」と、乗り物は変化していった。

また、大正時代には由比駅が建設され、昭和27年には国道が開通し、昭和33年には正月橋がコンクリート化された。

時代とともに交通は発達したが、昔ながらの景色は失われた。

漁港の誕生



昭和16年に着手され、風浪や戦時下といった悪条件下、工事は難航したが、昭和18年に第一期工事が終わり、今宿海岸に突堤が構築された。これが現在の由比漁港誕生の足がかりとなった。

5年「守ろう、残そう、由比の自然！」

(児童会館、5年1組教室、5年2組教室、5年プレイルーム)

1. 由比の自然と生き物の関係は？

課題：「町の自然が減ることで生き物も減っている」

提言：「エコ対策により、町の森や川を守ろう」

- ・昆虫等の生息場所となる畑や森林を守る。



2. 和瀬川、キコエ川、由比川、駿河湾の汚れ

課題：「生活排水によって、町の川や海が汚れている」

提言：「町民一人ひとりが責任を持ち、川や海を守ろう」

- ・洗剤の使用量を減らす。
- ・川にゴミを捨てない等の決まりを作る。
- ・米のとぎ汁は植木にかける。

3. 由比の空気の汚れ

課題：「町に大規模な道路が多く、温暖化の原因となるCO₂が多く排出されている」

提言：「CO₂の発生量を減らそう」

- ・冷房、暖房は適切な温度調節を行う。
- ・天ぷら油を燃料とするBDF車を取り入れる。

場所	汚染度
JRの変電所	約 96.7 %
由比川橋の近く	約 8.6 %
西山林館	約 7.5 %
公民館の近く	約 7.5 %
県庁	約 7.5 %
由比駅の近く	約 6.7 %
鎌倉山の近く	約 2.0 %
北小学校	約 1.7 %
東山寺の近く	約 1.0 %



4. 由比をキレイにする「エコ生活」

課題：「町の空気は、排気ガスで汚れている」

提言：「生活にエコを取り入れよう」

- ・節電節水を心がける。
- ・冷蔵庫の開け閉めに気を使う。

5. 由比町のゴミの量と工夫

課題：「町のゴミ埋立地はH22年にいっぱいになる」

提言：「ゴミを減らす工夫をしよう」

- ・生ゴミは畑にまいて肥料にする。
- ・ゴミの分別をしっかりと行う。



6. 由比町の今と昔のゴミの違い

課題：「紙のゴミは減ってきているが、プラスチックのゴミは増えている」

提言：「リサイクルを心がけよう」

- ・スーパーの袋をゴミ袋として利用する。
- ・空き瓶を花瓶とする。

(3) 中学生提案概要

総合的な学習「結タイム」

平成18年11月22日

由比町立由比中学校体育館2階フロア

発表1：「由比の観光名所を知ってもらうために私達ができること」

課題：「観光客の年齢層が高いため、町の新しいイメージ・印象づくりが必要となってきた」

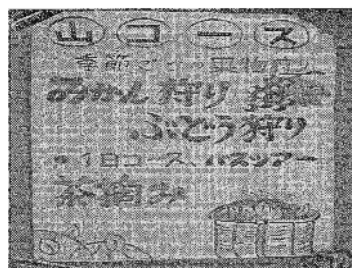
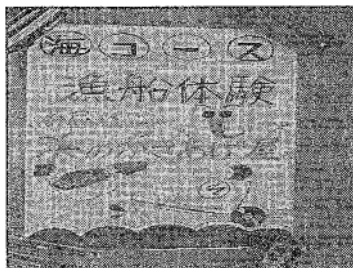
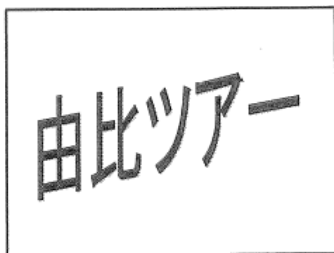
提言：「由比でしか出来ない観光を目指した、“由比ツアー”の企画・開催」

- ・由比の観光名所をツアー形式で回り由比を知ってもらう。
- ・由比ツアーには、漁船体験や海の幸を楽しむ「海コース」と、果物狩りやお茶摘み等を楽しむ「山コース」を提案する。



「若年層をターゲットとした、由比町としての新しい印象・イメージ作りを考えていく」

- ・ツアー形式の観光等、新しい企画により、様々な年齢層の方に気軽に観光に来てもらう。

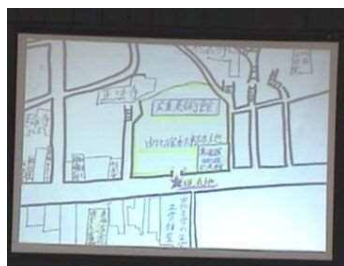


発表2：「由比町の観光案内について」

課題：「標識が少なく、また古くからの細い道が多いため、道が分かりづらい」

提言：「安心して楽しめる観光を目指して、案内、看板、標識の整備をしよう」

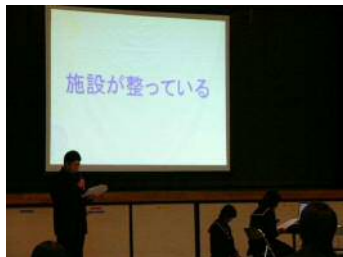
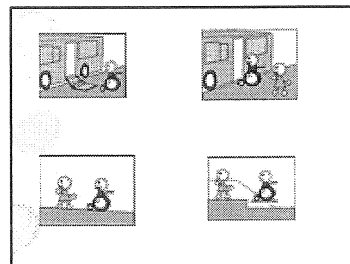
- ・観光客のために、地図を掲載したパンフレットを作成する。
- ・パンフレットの配布や観光案内板設置だけでなく、観光動線上に標識を設置し、訪れた人に分かりやすい道造りを行う。



発表3：「由比町の福祉について」

課題：「高齢化社会対策を考えたまちづくりをする」
 提言：「バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れた生活、まちづくりをしていこう」

- ・道路の段差や階段に手すりやスロープを設置する。
- ・バスや電車の案内掲示板は文字の拡大等による改善、また停留所への点字の設置を行う。



・由比町もバリアフリー、ユニバーサルデザインに対する意識、工夫、そして思いやりの心を高めていきたいです

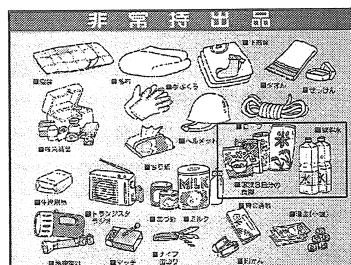
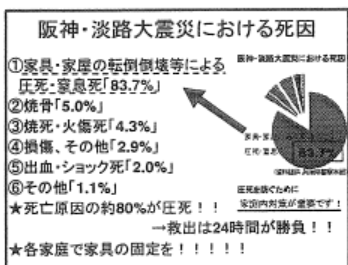
発表4：「東海地震への備えについて」

課題：「地震の仕組みを知ることや阪神大震災を振り返ることで、東海地震に備える」
 提言：「普段からの近所同士の交流から、近くに住む人同士で助け合いが出来る体制を作る」

「家具の固定、非常時持ち出し品の準備といった、個人としての対策をしっかりする」



- ・阪神淡路大震災時の死因で最も多かった「家具・家屋の転倒倒壊などによる圧死・窒息死」を防ぐため、普段から家具をしっかり固定する。
- ・町の備蓄食料は約三日分、また災害時に新しい食料が届くには一週間程度かかるため、各家庭で最低一人三日分の食料と飲料水を用意しておく。



- #### 避難の十箇条
- 一、まず身の安全を！！
 - 二、素早く火の始末！！
 - 三、窓や戸を開けて出口を確保！！
 - 四、火が出たらすぐ消火！！
 - 五、外へ逃げるときはあわてずに！！
 - 六、狭い路地やブロック塀には近づかない！！
 - 七、山崩れ・崖崩れ・津波に注意！！
 - 八、避難は徒歩で！！
 - 九、協力し合って応急救護！！
 - 十、正しい情報を聞く！！

発表5：「由比町のお菓子産業を活発にしよう」

課題：「菓子屋のパンフレット・PRポスターがなく広報の面で足りないところがある」

提言：「インターネットや口コミをつかいPRをする」

「町民、観光客に向けた詳しいパンフレット作り、由比の地図を加える」



- ・パンフレットに、お菓子を食べたお客の感想を掲載する。
- ・多くの人が利用する施設にパンフレットを置く。
- ・由比のお菓子を有名にするには、まず、地元での消費を拡大したい。



味や形で気をつけていることは？

- ・甘さ・カロリーを控えめに
- ・ヘルシーな物を作る



由比のお菓子の工夫

●材料の選択●

- ・産地の選択
- ・糖度の選択
- ・原料製造メーカーの選択
...etc

由比町ってどんな町？！

東海道五十三次十六番目の宿場町
本町や由比港周辺の風景みごとでも「田舎町(由比)」の名前を冠しています。由来は遠くから江戸参府を往く人の風物です。

日本一得え(知識)
「桜えび」は日本中で数少ない産地であり、その味は独特です。桜えびは、えびと似たような味がしますが、甘みがあります。香味は5月下旬～6月下旬、収穫が10月下旬～12月下旬に行われています。

豊かな景色
「桜えび産地」の産地として知られてきた由比は、豊かな自然環境に恵まれています。由比の風景は、東海道五十三次でも有名な風景が再現されています。

桃林堂
☆桜えびまんじゅう☆
こだわりのあんこ、その中に桜えびの殻が入っています。桜えびの風味がたっぷりとしたおまんじゅうです。
値段
2ヶ入・195円
1箱 10ヶ入・128円
賞味期限
夏 30日～1ヵ月
♡一言メモ♡
えび嫌いの人でも7分な口当たりで食べられます。

松風堂
☆桜えびゼリー☆
こだわりのゼリー、サクサクとした食感、桜えびの殻を使ったおまんじゅうです。子供からお年寄りまで楽しめます。
値段
1箱 10ヶ入・880円
18ヶ入・1230円
40ヶ入・3450円

桜えび館
☆桜えび餅☆
こだわりの餅、しっかりとえびの殻がして、ハイ生地でとてもサクサクしている本格的な餅です。
値段
10ヶ入り
♡一言メモ♡
桜えび餅の中には『桜えび新選』という豪華製があるのでも、買物中も便利です!!

春登製菓
☆たまごもち☆
こだわりのお餅は、お餅は柔らかく、サクサクとした食感で、中のあんこは北海道産のさらしあんこを使用しています。
値段
1ヶ 73円
1箱 10ヶ入 738円
賞味期限
2日間ほど

7. 住民意向調査結果の概要

(1) 調査概要

住民等の意向調査として以下の3通りのアンケート調査を行いました。

調査方法は郵送配布、郵送回収方式とし、平成18年4月24日に発送、返送期限は平成18年5月10日としました。なお、由比中学校へも当該期間内に配布、回収を依頼しました。

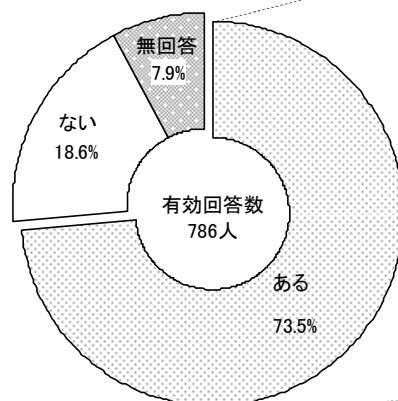
	対 象	配布数	回収数	回収率
町民アンケート	由比町在住の高校生以上を対象に、住民基本台帳から無作為抽出した町民	2,064	786	38.1%
中学生アンケート	由比中学校の全生徒	264	264	100.0%
観光アンケート	主として、過去に町の観光パンフレットの郵送を要望した人	508	281	55.3%

(2) 町民アンケート結果概要

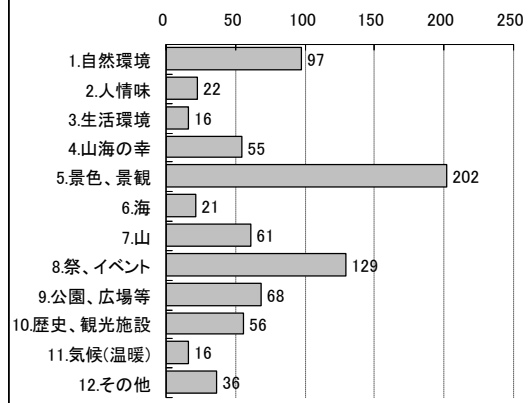
問：由比町の好きなおところ

7割以上の方が町に好きなおところがあり、自然的な要素が圧倒的（5割以上）に好かれています。

問3. 好きなおところの有無



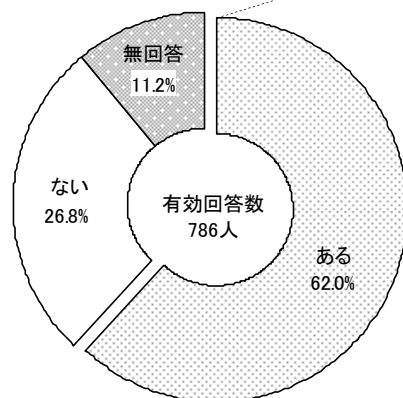
問3. 好きなおところの記述（複数回答）



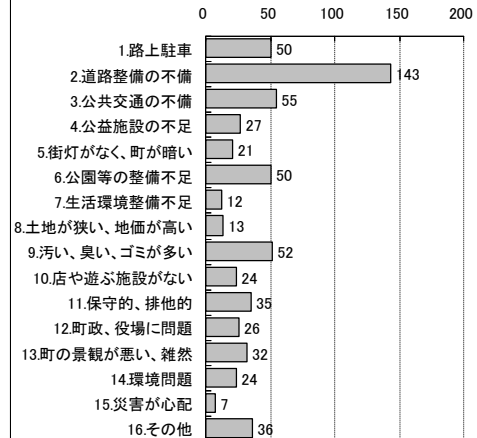
問：由比町の嫌いなおところ

6割以上の方が町に嫌いなおところがあり、そのうち5割以上が居住環境整備の遅れを挙げています。

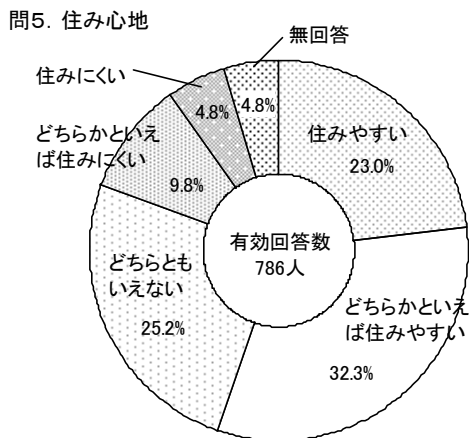
問4. 嫌いなおところの有無



問4. 嫌いなおところの記述（複数回答）



問：由比町の住み心地



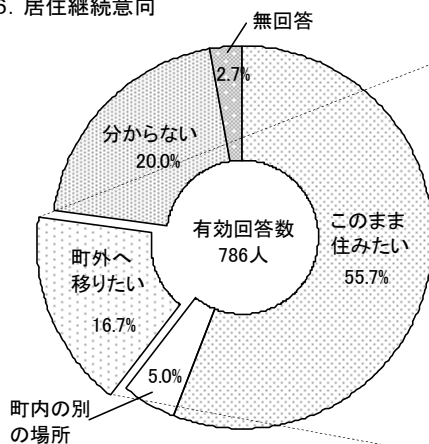
「住みやすい」と「やや住みやすい」の好評価者は約 55%で、その理由は「気候が温暖で自然環境に恵まれているから」と「人情味がある・人間性が良い・友人知人が多いから」が多くなりました。

一方、「住みにくい」と「やや住みにくい」は約 15%でしたが、「どちらとも・・・」も含めた好評価できない人は約 40%になり、その理由は「公共施設・インフラ整備の遅れ」と「排他的・人間関係がわずらわしいから」が多くなりました。

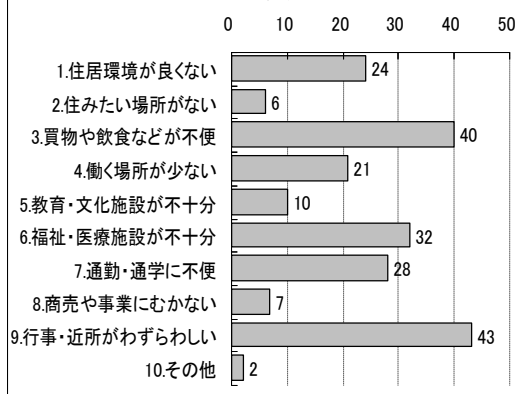
問：居住継続の意向

今後とも由比町に住み続けたいかを聞いたところ、「このまま住みたい」は約 56%、「町内の別の場所」は約 5%で、概ね 6 割は町内居住の意思がありました。一方、「町外へ移りたい」は約 17%、「分からない」は約 20%で、2～4 割程度は町外への移動の可能性があります。また、「町外へ移りたい」理由は「行事や近所づきあいがわずらわしい」が最も多くなりました。

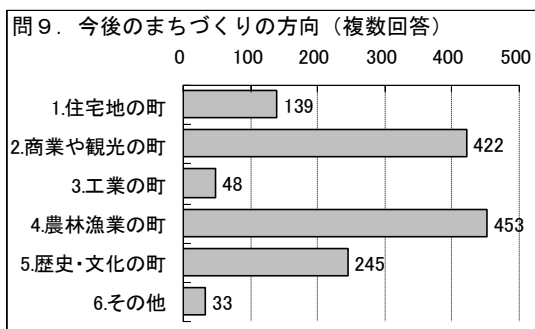
問6. 居住継続意向



問7. 町外へ移りたい理由（複数回答）



問：今後のまちづくりの方向性



将来のまちづくりの方向性については、「農林漁業の町」が最も多く、次いで「商業や観光の町」でした。

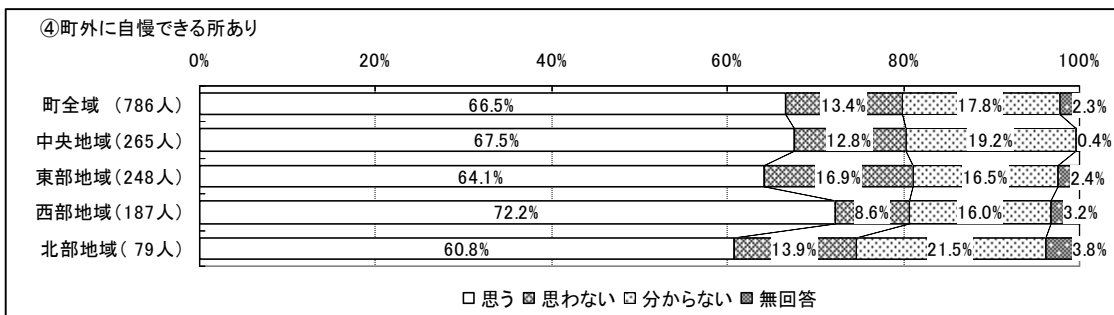
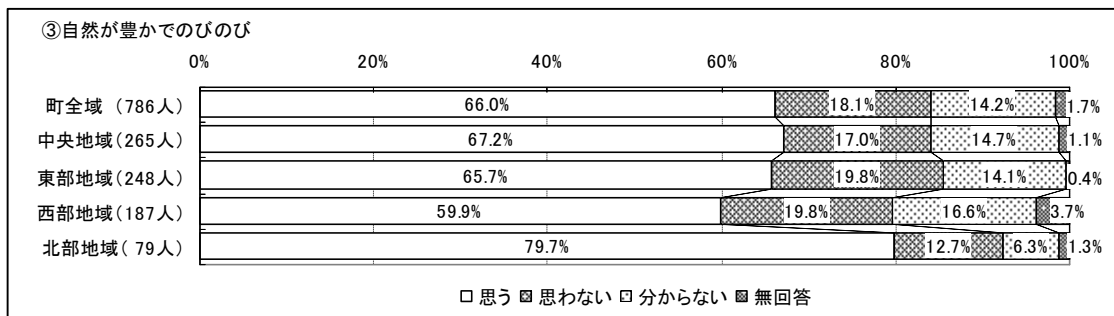
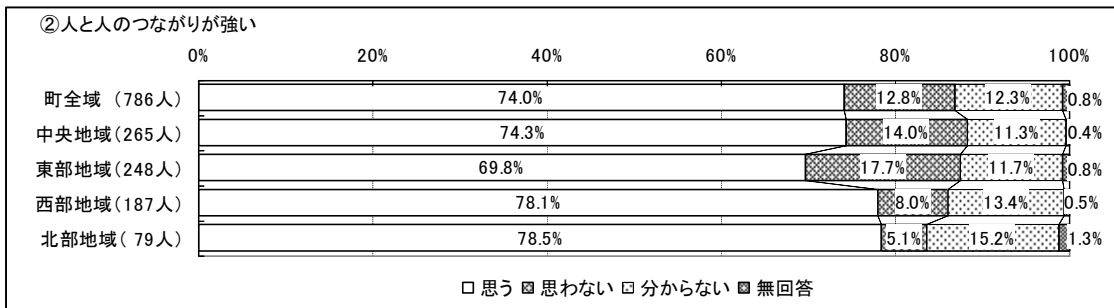
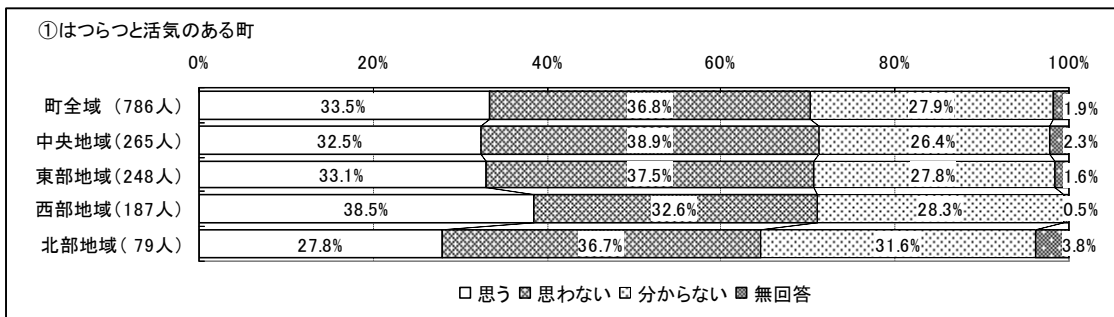
最も少ないのは「工業の町」でした。

(3) 町民アンケート地域別比較概要

町民アンケートの結果を地域別に比較しました。その結果は以下のとおりです。

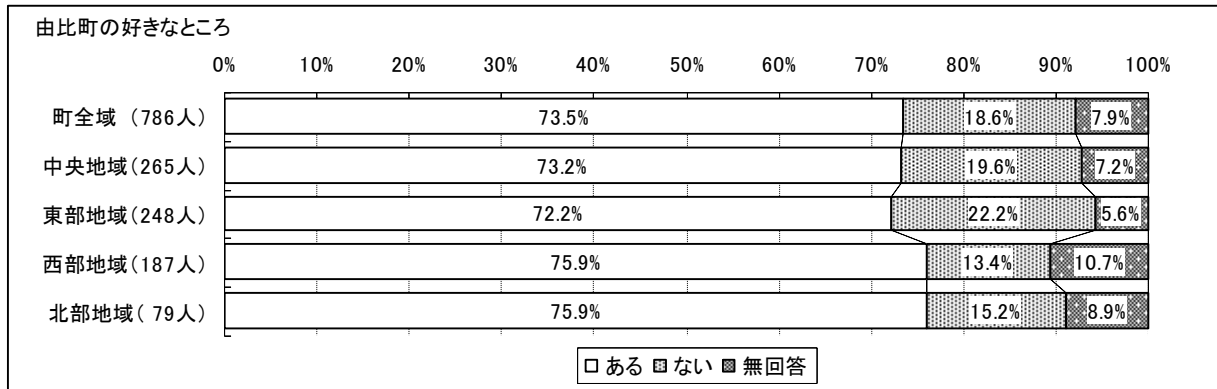
問：由比町の印象

- ①はつらつと活気のある町・・・「思う」の比率は西部地域で比較的高いのに対し、北部地域では比較的低い傾向にあります。一方、「思わない」の比率は、西部地域が低いほかは大きな相違はありませんでした。
- ②人と人のつながりが強い・・・「思う」の比率は、西部地域、北部地域で比較的高く、東部地域で比較的低い結果になりました。
- ③自然が豊かでのびのび・・・「思う」の比率は、北部地域が8割近くと高いのに対し、西部地域では他地域より低い結果となりました。
- ④町外に自慢できる所あり・・・西部地域で「思う」が高く、「思わない」が低くなりました。また、北部地域では「思う」が比較的低くなりました。



問：由比町の好きなおところ

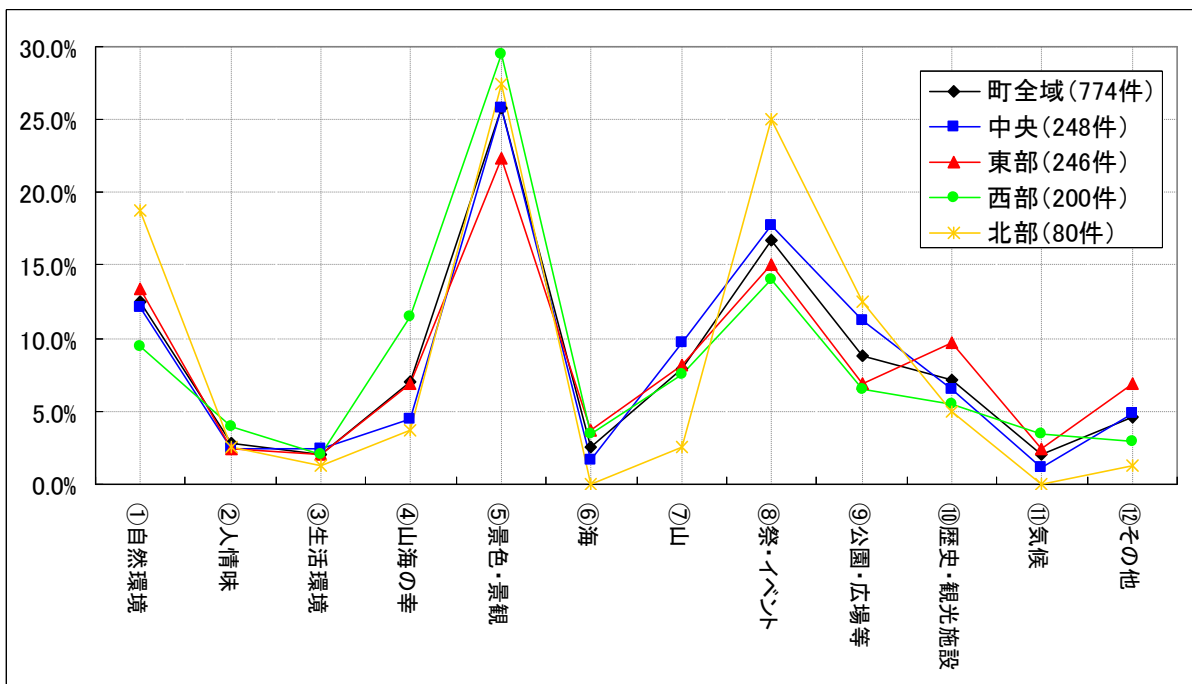
全地域の7割以上が好きなおところがあると感じているようです。地域ごとに大差はありませんが、西部地域、北部地域が比較的「ある」の比率が高く、「ない」の比率が低い傾向にあります。



好きなおところの記述内容（複数回答）

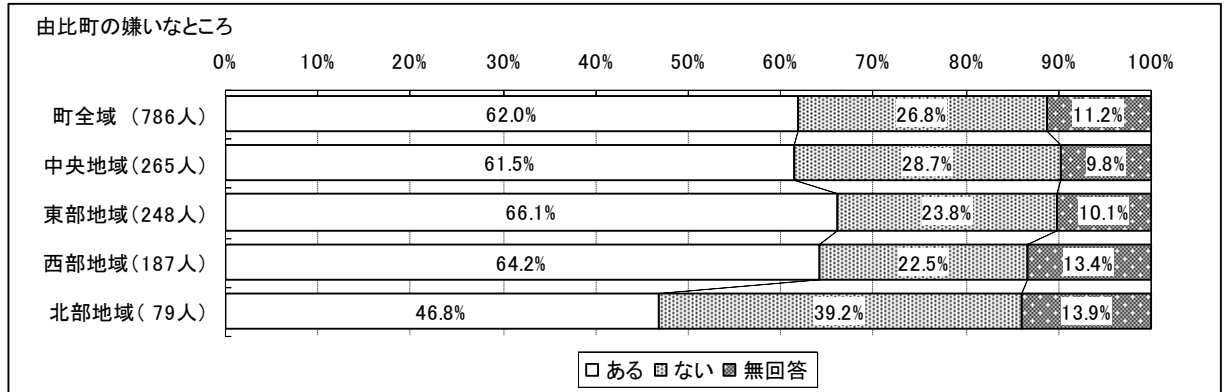
町全域では、「⑤景色・景観」がもっとも多く、次いで「⑧祭り・イベント」が続いています。地域ごとの特徴は次のようになります。

- ・中央地域では、他地域と比べ突出した項目はあまりありませんが、⑦～⑨の項目で、他地域と比べ比較的高い割合を占めています。
- ・東部地域では、「⑩歴史・観光施設」が他地域より目立って高い傾向にあります。
- ・西部地域では、「④山海の幸」「⑤景色・景観」の項目で他地域より高い割合を占めています。
- ・北部地域では、「①自然環境」「⑧祭り・イベント」等の項目で他地域より高い割合を占めます。



問：由比町の嫌いなところ

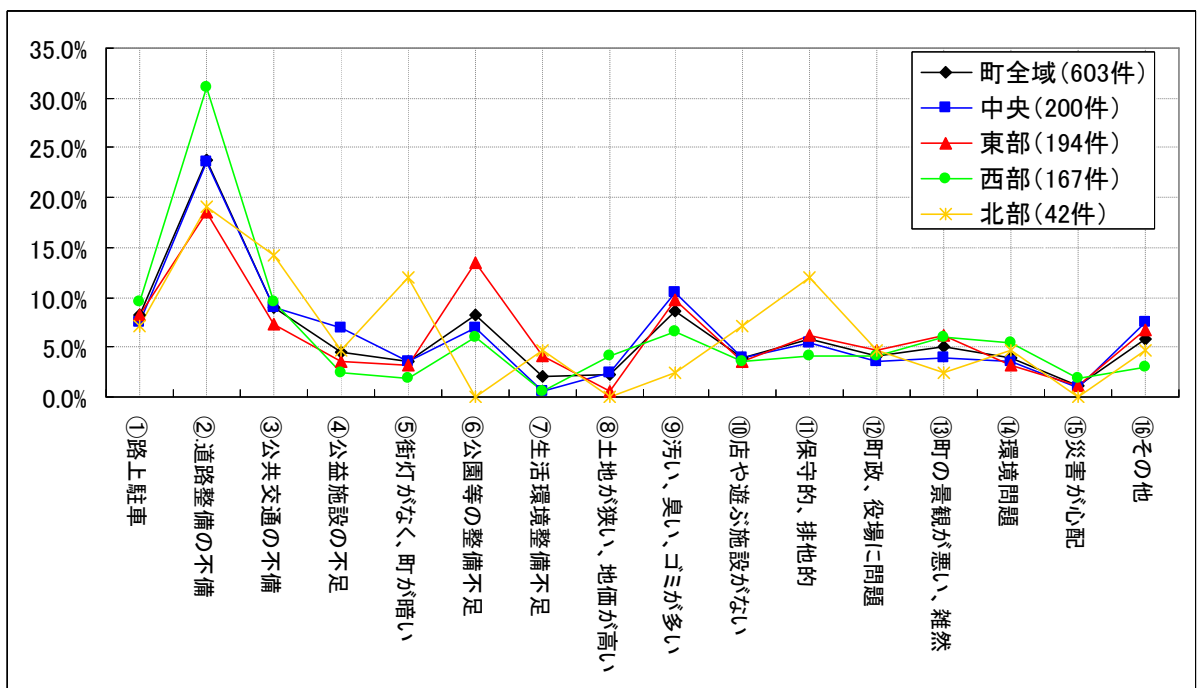
北部地域、次いで中央地域で、由比町の嫌いなところが少ない（嫌いなところが「ある」が少なく、「ない」が多い割合を占める）ようです。



嫌いなところの記述内容（複数回答）

町全域では、「②道路整備の不備」の項目が一番高い割合を占めています。地域ごとの特徴は次のようになります。

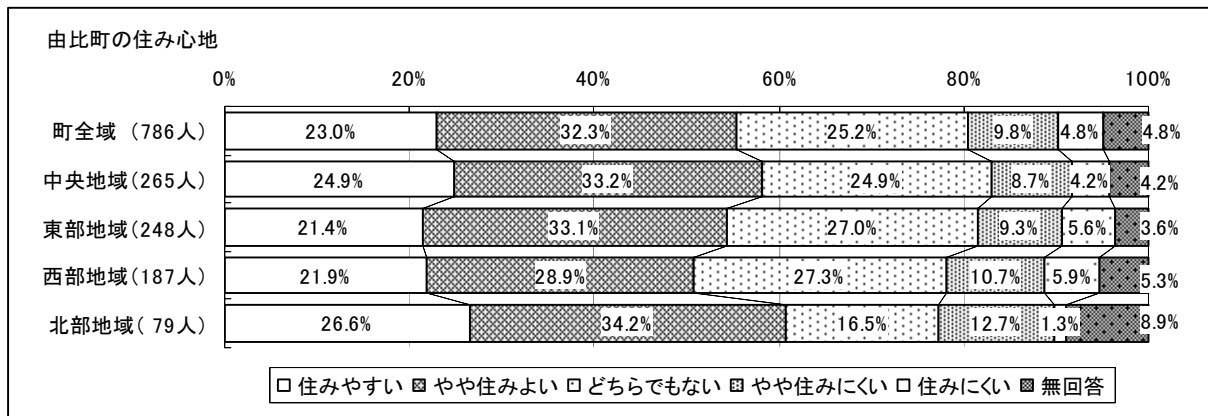
- ・中央地域では、他地域と比べ突出した項目はあまりありませんが、「④公益施設の不足」「⑨汚い、臭い、ゴミが多い」の項目で、他地域と比べ高い割合を占めています。
- ・東部地域では、「⑥公園等の整備不足」が他地域より目立って高い傾向にあります。
- ・西部地域では、「②道路整備の不備」「⑧土地が狭い、地価が高い」等の項目で他地域より高い割合を占めています。
- ・北部地域では、「③公共交通の不備」「⑤街灯がなく、町が暗い」等の項目で他地域より高い割合を占めています。



問：由比町の住み心地

北部地域は「住みやすい」、「やや住みよい」をあわせると6割を超え、由比町を住みやすい土地と感じている人が多いようです。西部地域では「住みやすい」、「やや住みよい」は他地域より低い傾向にあります。

一方、「住みにくい」、「やや住みにくい」の回答は、地域による大きな相違は見られません。

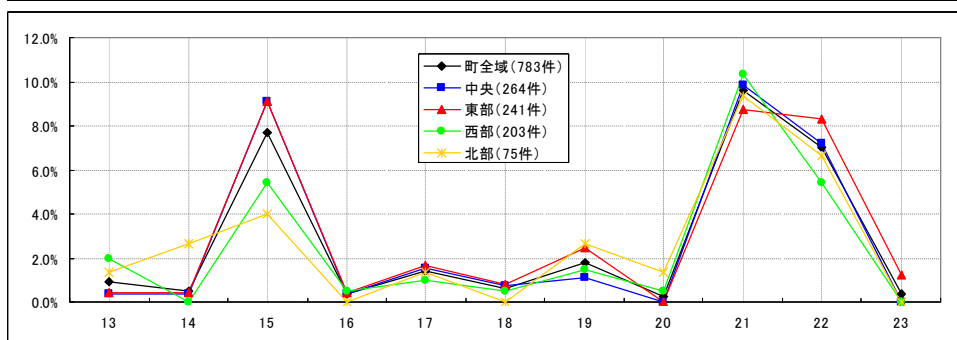
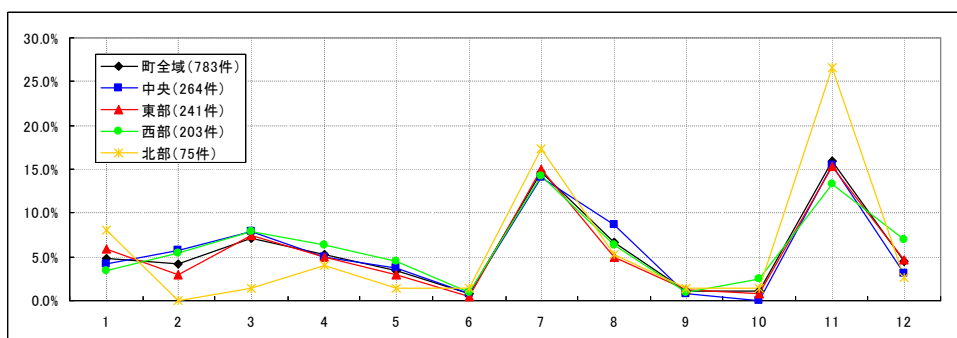


住み心地の記述内容 (複数回答)

1.交通の便が悪い
2.交通の便が良い
3.公共施設・インフラ整備の遅れ
4.店や遊ぶ場所が少ない(ない)
5.店や公共施設が近く便利
6.土地が狭い・地価が高い
7.人情味がある・人間性が良い・友人知人が多い
8.排他的・人間関係がわずらわしい
9.環境問題(大気汚染・騒音・山野の荒廃等)
10.地震・災害が心配
11.気候が温暖で自然環境に恵まれている
12.海の幸、山の幸が豊か
13.景色・景観が良い
14.子育て支援等の福祉の充実
15.のどかである・静かである・田舎である
16.少子高齢化が進んでいる
17.他市に近い
18.治安が良い・安心して暮らせる
19.市政に問題がある・税金が高い
20.将来に不安を感じる
21.生まれたところ・住み慣れている
22.その他
23.特になし

町全域では、「11. 気候が温暖で自然環境に恵まれている」の回答が一番高い割合を占めます。地域ごとの特徴は次のようになります。

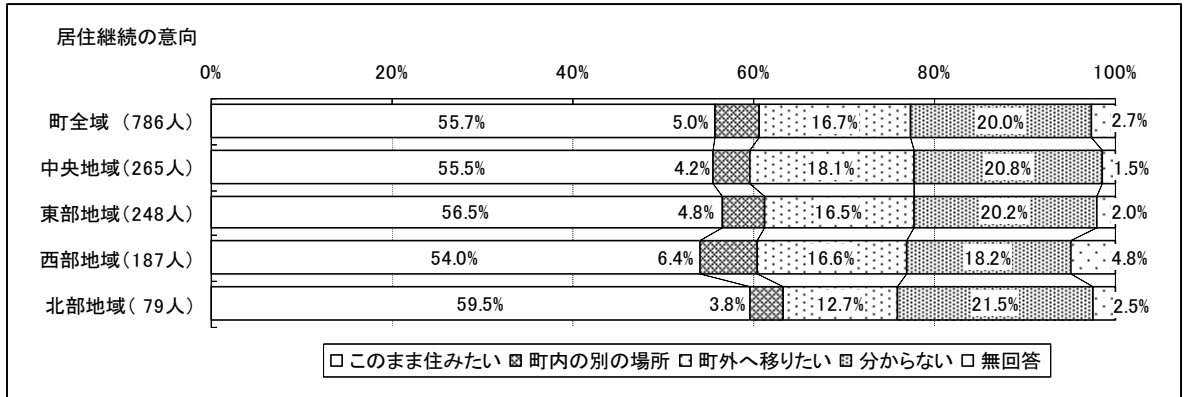
- ・中央地域では、「8. 排他的・人間関係がわずらわしい」の項目が他地域より多い割合を占めます。
- ・東部地域では、「15. のどかである・静かである・田舎である」の項目が他地域より多い割合を占めます。
- ・西部地域では、「12. 海の幸、山の幸が豊か」「13. 景色・景観が良い」等の項目が他地域より多い割合を占めます。
- ・北部地域では、「1. 交通の便が悪い」「11. 気候が温暖で自然環境に恵まれている」等の項目が他地域より多い割合を占めます。



問：居住継続の意向、町外へ出たい理由

「このまま住みたい」の回答では、北部地域で少し高い傾向にあります。また、「町内の別の場所」の回答では、西部地域が一番高い比率を占めます。

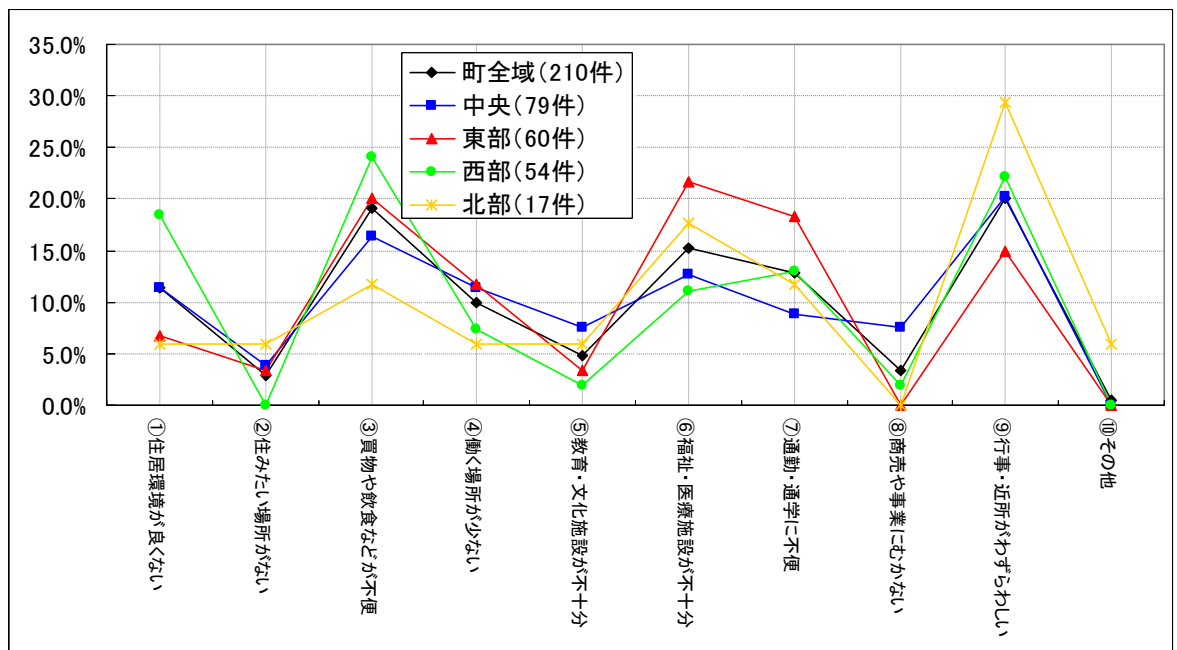
一方、「町外へ移りたい」の回答では、中央地域が一番高い傾向にあります。



町外へ出たい理由（複数回答）

町全域では、「⑨行事・近所がわずらわしい」の項目が一番高い割合を占めています。地域ごとの特徴は次のようになります。

- ・中央地域では、「⑤教育・文化施設が不十分」「⑧商売や事業にむかない」の項目で、他地域と比べ高い割合を占めています。
- ・東部地域では、「⑥福祉・医療施設が不十分」「⑦通勤・通学に不便」が他地域より目立って高い傾向にあります。
- ・西部地域では、「①住居環境が良くない」「③買物や飲食などが不便」の項目で他地域より高い割合を占めています。
- ・北部地域では、「②住みたい場所がない」「⑨行事・近所がわずらわしい」の項目で他地域より高い割合を占めています。



問：現在の満足度と今後の重要施策

由比町全体の「現在の満足度」と「今後の重要施策」について、下表の32項目を尋ねました。

項目	現在の満足度					今後の重要項目	
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満		
交通	①県道や国道などの幹線道路の整備	5	4	3	2	1	
	②町道などの生活道路の整備	5	4	3	2	1	
	③電車やバスなどの公共交通機関の利便さ	5	4	3	2	1	
環境	④水や緑などの自然環境の豊かさ	5	4	3	2	1	
	⑤海、山、川などの自然景観の美しさ	5	4	3	2	1	
	⑥まちなみの美しさ	5	4	3	2	1	
	⑦騒音や悪臭などへの公害対策	5	4	3	2	1	
	⑧下水やし尿処理対策	5	4	3	2	1	
	⑨ゴミ処理やリサイクル対策	5	4	3	2	1	
	⑩食料品や日用品の買い物の利便さ	5	4	3	2	1	
生活・文化	⑪小公園や子供の遊び場などの充実度	5	4	3	2	1	
	⑫スポーツ施設やレクリエーション施設の充実度	5	4	3	2	1	
	⑬中央公民館などの文化施設の充実度	5	4	3	2	1	
	⑭地区集会所などの地域施設の充実度	5	4	3	2	1	
防災等	⑮自然災害（地震や地滑りなど）への対策	5	4	3	2	1	
	⑯治山、治水対策	5	4	3	2	1	
	⑰火災や犯罪などへの対策	5	4	3	2	1	
	⑱交通安全対策	5	4	3	2	1	
医療・福祉	⑲身障者や高齢者への福祉対策	5	4	3	2	1	
	⑳幼児・児童への福祉対策	5	4	3	2	1	
	㉑医療施設・救急医療体制の充実度	5	4	3	2	1	
	㉒町民の健（検）診などの保健活動	5	4	3	2	1	
教育	㉓幼稚園などの幼児教育とその施設の充実度	5	4	3	2	1	
	㉔小中学校の義務教育とその施設の充実度	5	4	3	2	1	
	㉕生涯学習のための施設等の充実度	5	4	3	2	1	
産業	㉖商工業の振興	5	4	3	2	1	
	㉗観光産業の振興	5	4	3	2	1	
	㉘漁業の振興	5	4	3	2	1	
	㉙農業の振興	5	4	3	2	1	
その他	㉚行政への住民参加の取り組み	5	4	3	2	1	
	㉛行政サービスの充実度	5	4	3	2	1	
	㉜近所付き合いや地域のコミュニティ活動など	5	4	3	2	1	

尚、現在の満足度については、右表の判定基準により評価し、平均値を算出し、地域別に比較しました。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
5	4	3	2	1
+2	+1	±0	-1	-2

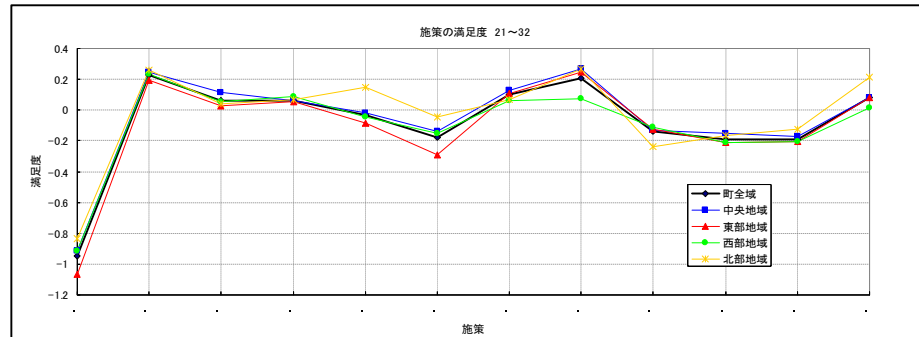
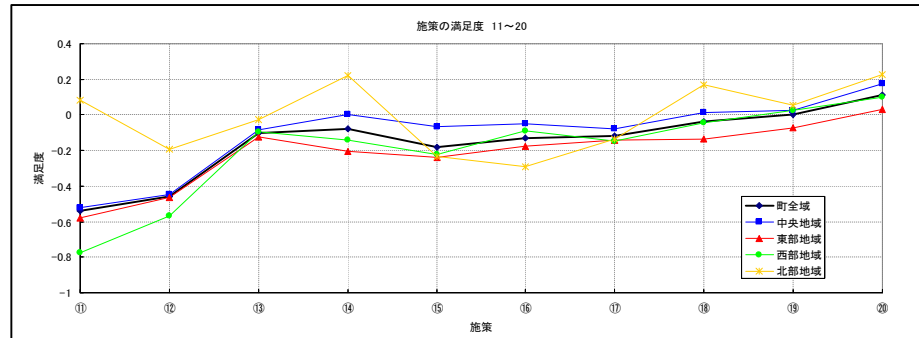
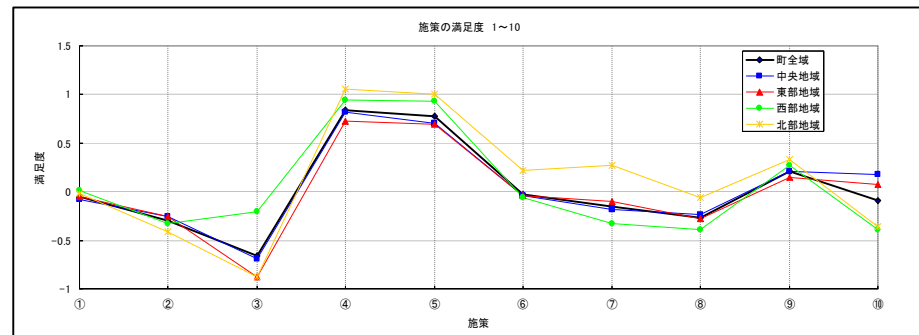
地域別の現在の満足度

町全域では、最も満足度が高い項目は「④水や緑などの自然環境の豊かさ」で、次いで「⑤海、山、川などの自然景観の美しさ」となり、自然や緑地に関する満足度が高くなりました。

一方、最も不満は「・医療施設・救急医療体制の充実度」が突出して高く、次いで「③電車やバスなどの公共交通機関の便利さ」等が続いています。

地域ごとの特徴は次のようになります。

- 中央地域では、「⑩食品や日用品の買い物の便利さ」や⑮～⑱の防災等の項目で、満足度が他地域より高い傾向にあります。また、地域による差はあまりありませんが、㉓～㉕の教育関連の項目で、比較的満足度が高くなっています。一方、他地域より満足度が低い項目はあまりありませんが、④～⑨の環境の項目は低い傾向にあります。
- 東部地域では、満足度が他地域より突出して高いものはありません。一方、「③電車やバスなどの公共交通機関の便利さ」や④～⑨の環境に関する項目、⑲～㉒の医療・福祉に関する項目等で、他地域より満足度が低くなりました。また、「㉔商工業の振興」も満足度が低く、商工業の振興が望まれているようです。
- 西部地域では、「③電車やバスなどの公共交通機関の便利さ」で満足はされていませんが、他地域より突出して満足度が高くなっています。一方、「⑦騒音や悪臭などへの公害対策」や⑩～⑭の生活・文化に関する項目は、他地域より満足度が低い傾向にあります。また、「㉔漁業の振興」も満足度が低く、漁業の振興が望まれているようです。
- 北部地域では、④～⑨の環境に関する項目、「⑩食品や日用品の買い物の便利さ」を除いた⑪～⑭の生活・文化に関する項目等、様々な項目で他地域より満足度が高い結果となりました。一方、「⑩食品や日用品の買い物の便利さ」や「⑯治山、治水対策」及び「㉔農業の振興」等で満足度が低くなりました。

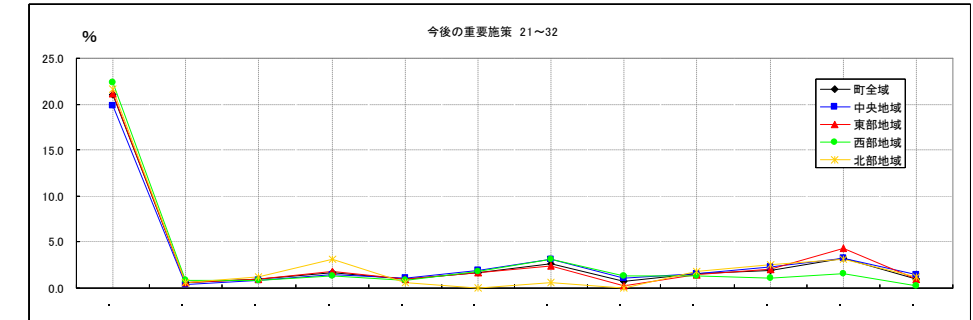
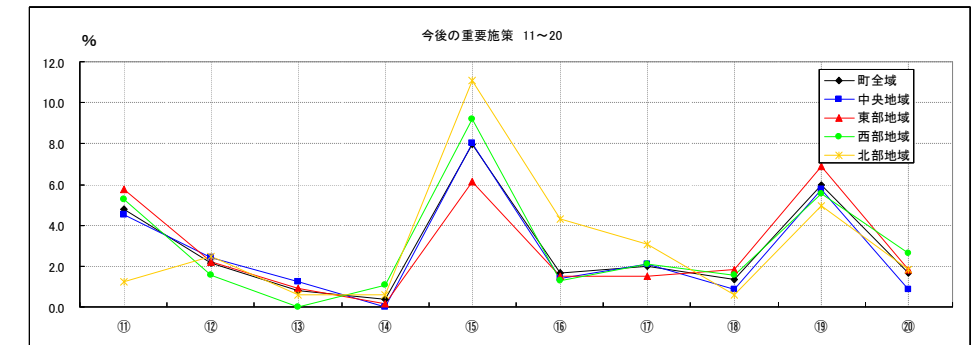
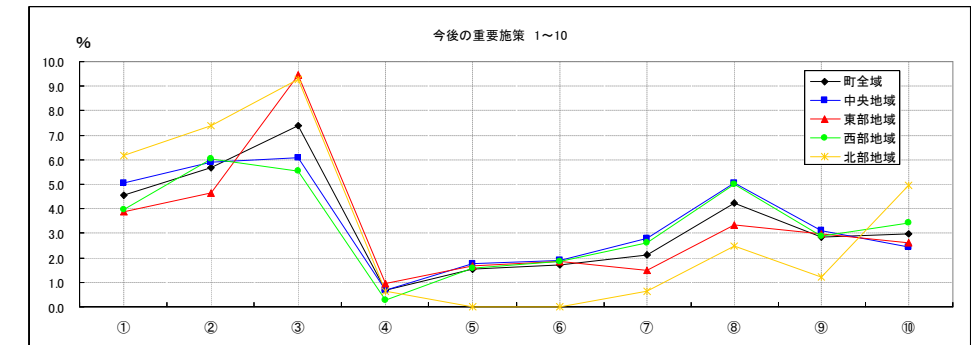


地域別の今後の重要施策（複数回答）

町全域では、今後の重要施策については「・医療施設・救急医療体制の充実度」が圧倒的に多く、次いで「⑮自然災害（地震や地滑りなど）への対策」「③電車やバスなどの公共交通機関の便利さ」等と続いています。

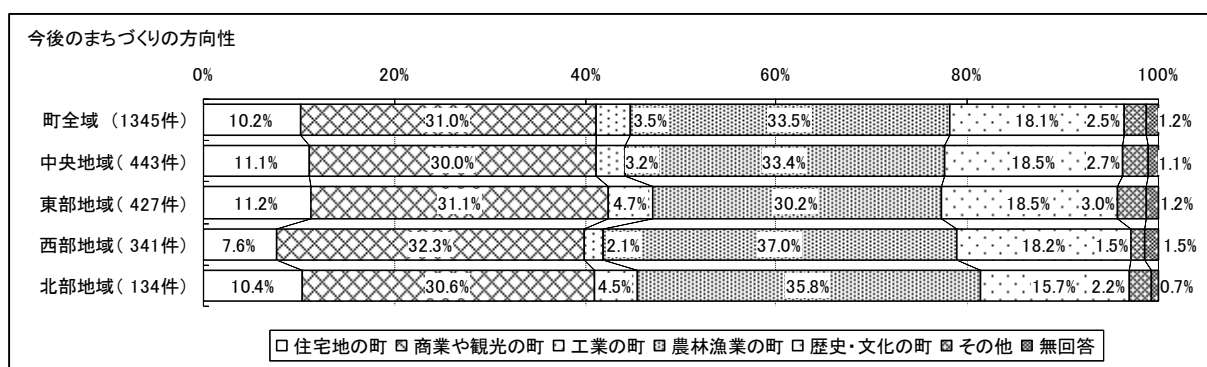
地域ごとの特徴は次のようになります。

- 中央地域では、あまり突出したところはありませんが、④～⑨の環境の項目等が、今後の重要施策として他地域より高くなっています。
- 東部地域では、「③電車やバスなどの公共交通機関の便利さ」や「⑪小公園や子供の遊び場などの充実度」等の項目が、重要度が高いと考えられているようです。一方、「②町道などの生活道路の整備」や「⑮自然災害（地震や地滑りなど）への対策」は、他地域より低くなっています。
- 西部地域では、④～⑨の環境の項目や「⑮自然災害（地震や地滑りなど）への対策」等が、他地域より重要度が高いと考えられているようです。一方、「③電車やバスなどの公共交通機関の便利さ」の項目は、他地域より重要度が低くなりました。
- 北部地域では、①～③の交通に関する項目や、「⑩食品や日用品の買い物の便利さ」が他地域より突出して高くなっている他、⑮～⑰の自然災害や治山・治水対策等の防災に関する項目も高くなっています。一方、④～⑨の環境に関する項目は、重要度が低いとされています。



問：今後のまちづくりの方向性（複数回答）

住宅地の町	地域による大きな相違は見られませんが、住宅背後地に地すべり防止区域がある西部地域では、他地域に比べ比率が低くなりました。
商業や観光の町	「農林漁業の町」とともに、全地域で高い比率を占めます。今後のまちづくりの方向性の中で、一番多い割合を占めた東部地域では、商業や観光を中心としたまちづくりが望まれているようです。
工業の町	地域による大きな相違は見られず、全地域で低い比率となりました。
農林漁業の町	「商業や観光の町」とともに、全地域で高い比率を占め、東部地域以外の地域では、一番多い比率を占めています。また、漁港のある西部地域では、他地域より比較的高い傾向にあります。
歴史・文化の町	北部地域で多少低いほかは、地域による大きな相違は見られません。

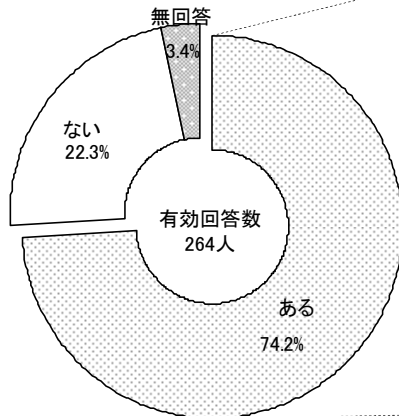


(4) 中学生アンケート結果概要

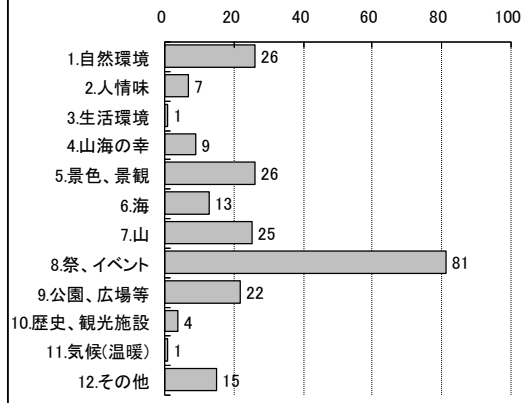
問：由比町の好きなところ

中学生は7割以上が町に好きなところがあり、「祭り・イベント」が最も好かれています。

問3. 好きなところの有無



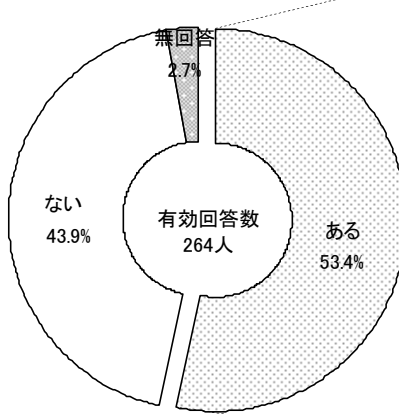
問3. 好きなところの記述 (複数回答)



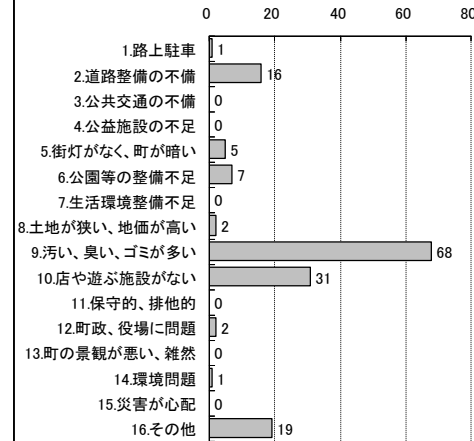
問：由比町の嫌いなおところ

5割以上が町に嫌いなおところがあり、特に多いのが「町中、川、海が汚い・臭い、ゴミが多い」ところでした。

問4. 嫌いなおところの有無

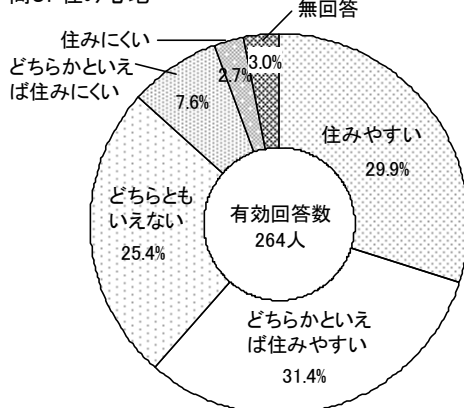


問4. 嫌いなおところの記述 (複数回答)



問：由比町の住み心地

問5. 住み心地



中学生の住み心地は、「住みやすい」と「やや住みやすい」を合わせた好評価者は約 61% で、その理由は「気候が温暖で自然環境に恵まれている」が最も多くありました。

一方、「住みにくい」と「やや住みにくい」は合わせると約 10%で、「どちらともいえない」も合わせた好評価できない人は約 36%で、その理由は「店や遊ぶ場所が少ない(ない)」が圧倒的に多くありました。

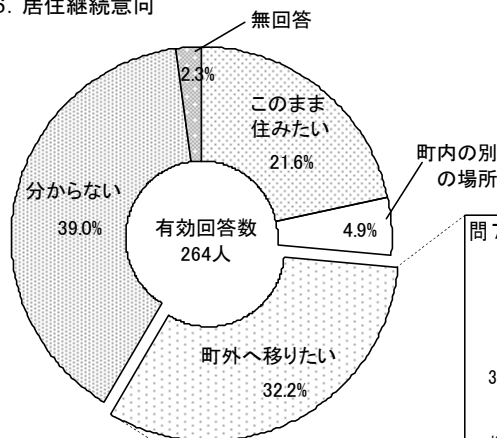
町民アンケートと比較すると好評価者の割合が高くなりました。

問：居住継続の意向

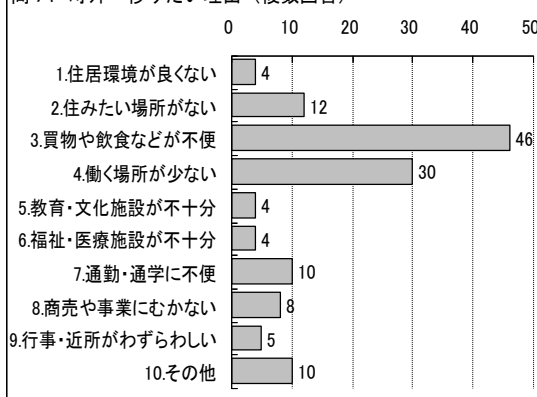
中学生の将来居住の意向は、「このまま住みたい」は約 22%、「町内の別の場所」は約 5%で、将来とも町内に居住したい中学生は 3 割以下になりました。一方、「町外へ移りたい」は約 32%、「分からない」は約 39%で、町民アンケートの 2 倍近い割合です。

「町外へ移りたい」理由は「買い物や飲食などが不便」が最も多くなりました。

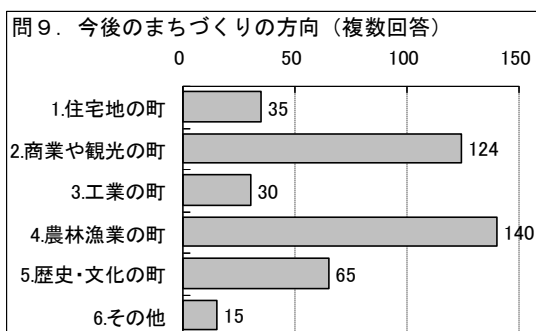
問6. 居住継続意向



問7. 町外へ移りたい理由（複数回答）



問：今後のまちづくりの方向性



最も多いのが「農林漁業の町」、次いで「商業や観光の町」で、最も少ないのは「工業の町」でした。

将来のまちづくりの方向性は、町民アンケートとほぼ同じ傾向、割合になりました。

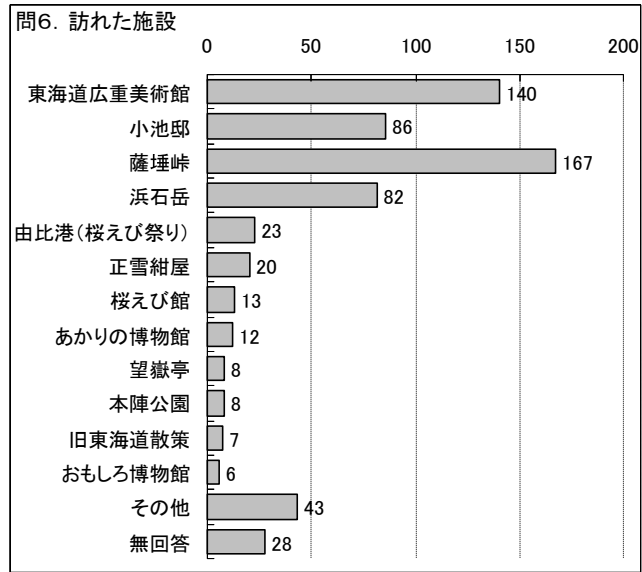
(5) 観光アンケート結果概要

問：由比で訪れた施設

来訪者が訪れた施設は、「薩埵峠」が最も多く、来訪者（263人）の6割以上が訪れています。

次いで「東海道広重美術館」が多く、この施設も5割以上が訪れており、この2つが本町の集客拠点と考えられます。

なお、「東海道広重美術館」と「本陣公園」、「御幸亭」、及び「交流館」は隣接しているので、一体的施設と捉えた場合、来訪者は152人になります。



問：由比の良いところ

由比町の良いところは、「浜石岳や薩埵峠からの景観や自然等」が最も多くなっています。

問：由比の悪いところ

由比町の悪いところは、「悪いところはない」を除けば、「各施設(店)への案内板、標識、マップ等が不足、不備」や「道が狭い、道路整備不足(歩道、遊歩道)」が多く、各施設へのアクセスをスムーズにする施策が不十分と考える人が多くなっています。

